

## ふるさとを創れ 三池炭鉱と筑豊炭鉱、炭鉱文化の比較

中川 雅子

### プロローグ

私の故郷は福岡県の最南端に位置する大牟田市。今は疲弊しきった元炭鉱町だ。一九五〇年代、六〇年代に人口二十万だった地方都市が、今年十四万を切り、ついに十三万台になった。市の中心商店街に人通りはまばらで、シャッターに貼られた 貸店舗 の赤い文字ばかりがやたらと目につく。かつては若者であふれる活気に満ちた繁華街だったという 新栄町 に至っては軒並みの閉店で、ほとんどゴースト・タウンと化している。五十歳以上の人に訊くと、三十年前までの大牟田の夜の町は毎日が祭りのような雑踏と賑わいだったという。現在の町の様子からは嘘のような、にわかには信じがたい話に聞こえる。

一九九八年三月三〇日、三井三池炭鉱は一〇八年の歴史の幕を閉じた。

閉山の約一ヶ月前から報道陣が押し寄せて、市内の旅館やホテルはどこもかしこも満室になっていた。その数は二百人とも三百人とも言われた。

全国紙各紙が特集記事を書いた。福岡市内の六つのテレビ局がそれぞれ特集番組を制作した。しかし 閉山 という事実の他に何のニュースもなく、山ほど集まったリポーターたちはみな拍子抜けした様子だった。日本最大の炭鉱の、あの 三池争議 で名を馳せた三井三池炭鉱の閉山という一大事だというのに、閉山反対 を叫ぶ者はひとりもおらず、肅々と町は静まり返っていたからだ。

閉山を目前にして、南新開竪坑、新港竪坑、港沖竪坑、四山第一竪坑が、閉山直後には

三池争議の象徴とも言われた三川鉱のホッパ<sup>1</sup>が、次々と解体されていった。

市民はただ黙っていた。地元から、竪坑保存の声はどこからも挙がらなかった。なぜ人々はこんなにも炭鉱の歴史に無関心でいられるのだろうか、と私は不思議に思うと同時に腹ただしくもあった。

当時、閉山に向けたドキュメンタリーを作るために大牟田に滞在していた九州朝日放送のニュースキヤスター、奥田智子氏は私にこう話してくれた。

正直言って、戸惑っています。筑豊的なものを期待して、大牟田に来たのですが……筑豊的なもの……。筑豊的なものとはなんだろう。

私は本屋で上野英信著 追われゆく坑夫たち を買った。一九六〇年に岩波書店から出版され、そのあと 同時代ライブラリー の一巻として新たに再版された本で、表紙には、黒いボタ山を背景に、緑色の、上半身裸の女坑夫が四つん道いになっている版画がプリントされている。

自室の硬い絨毯に寝転がって頁をめくるうちに、私は凍りついた。

三日三晩一睡もせず、ヒロポンを打ちながら採炭する坑夫、坑内のカンテラの光にボーンと照らされながら、ただひたすら この世のものじゃなか と口走る瘦せこけた老人坑夫、日なが一日、炭住の壁に向かって過ごす疲れきった坑夫、一本の羊羹を一切れずつ食べて、飢えをしのぐ家族、毎日のように血液銀行に通い、血を売る坑夫、次は眼球を売ろうか、薬丸を売ろうかという話で盛り上がる坑夫たち、地上の社会でも、地底の社会でも、幾重にも疎外された身体障害者坑夫たち……。暴力団まがいの鉱山会社は 圧制ヤマ あるいは 監獄ヤマ と

呼ばれていた。

おどろおどろしい暗黒の世界が、繰り広げられていた。しかもそれは一九五〇年代から六〇年代にかけての話、ほんのつい最近、私が生まれる約二十年前の話なのだ。

むろん三井三池炭鉱も陰惨な過去を持っている。戦前には五十七年間に渡って行われた囚人強制労働。その間に炭鉱で死んでいった囚人の数は三池集治監だけでも二五七〇人だ。重松一

義 三池集治監小史 囚人墓地保存会、二〇〇一年。熊本、長崎、佐賀などの囚人の死亡者数はまったく記録に残っていない。朝鮮人、中国人強制労働も行われていた。

町のあちこちに囚人墓地があり、朝鮮人、中国人の収容所跡がある。

2

そのような強制労働が行われたのは 富国強兵、殖産興業、そして近代化の真っ只中で、明治から昭和のはじめまでだった。

一方、追われゆく坑夫たちが描いている時代は高度経済成長直前。坑夫たちは囚人でもなければ、朝鮮人でも中国人でもない、ごく一般的な日本人だ。彼らの扱いは囚人そのものであった。栄養失調の子供たちや坑夫たちが炭住のあちこちにいた。

私は上野英信の著作を数冊読んだ。そうするうち、私は筑豊に嫉妬しはじめた。筑豊炭鉱について書かれた本は、ノンフィクションも小説も写真集も画集も山ほどあるではないか。また筑豊文学、炭鉱漫画、炭鉱絵画など、筑豊炭鉱を背景にしてたくさんの芸術作品が生まれている。資料、一二一頁参照。

しかるに三池炭鉱に関しては三池争議、三川鉱炭塵爆発、三川鉱炭塵爆発の被害者であるC O患者などについて書かれた本はいくつかある。けれども一般的な炭鉱労働者の生活や坑内での労働や、いわゆる炭住文化について書かれた本は皆無だ。ましてや芸術など……。

以来、私は 筑豊コンプレックス にとり憑かれた。

筑豊の町々ではきつと、人々は胸を張って炭鉱の歴史を語り合い、そしてわが町をあくまで炭鉱町としてとらえ、そのことを誇りに思っているに違いない、と私は思った。

筑豊的なものが三池に欠けているのはなぜだろう、と思った。

現在、三井三池炭鉱が閉山して、五年が経過した。大牟田の町は目まぐるしく変わった。鉱員社宅はすべて取り壊され、町の至るところに荒れ果てた空地がある。宮浦坑跡は巨大な赤い煙突が残され、公園として整備されている。旧宮ノ原坑と旧万田坑は、紆余曲折を経て、国の重要文化財指定を受け、手厚く保存されている。

私が京都に住みはじめて、三年半が過ぎた。はじめのうちは帰省するたびに変貌していく故郷の町並が許せなかった。しかし今、町を離れ、少しは冷静にわが町を見ることができるようになった。

そして筑豊に対しても。

あのとき耳にした 筑豊的なもの とは一体なんだったのか。そして今まで語られたことのない 三池的なもの とは存在するのか。それを見つけ出したいと思う。

1 採炭された石炭は選炭されたあと、ホッパーに集められ、出荷される。

2 大牟田市に戦中まで存在していた外国人収容所は約十カ所。福岡俘虜収容所、新港

町朝鮮人収容所、今井朝鮮人収容所、宮山朝鮮人収容所、通松中国人収容所、馬渡 朝

鮮人収容所、三池町平野山朝鮮人収容所、田隈朝鮮人収容所など。その跡地の多 くに、

後に三井三池炭鉱の社宅が建てられていた。

筑豊へ

二〇〇二年八月、大学の夏休みがはじまってすぐ、私は帰省した。そして地元、大牟田から筑豊へ向かった。もともとは電車を乗り継いで行くつもりだったが、期せずして、車で行くことになった。というのも、私には年に三回 春休みと夏休みと冬休み だけ会う Y 君という友人がいる。彼は福岡大学歴史学科の考古学専攻の学生だ。何気なく 近々、筑豊に行こうと思っているんだ。ともらずと、俺も行こうかなと、彼が言ったのだった。で、彼の家の日産マーチで筑豊へ向かうことになった。

筑豊と一言に言えども、広い。筑豊炭田は飯塚市、直方市、そして田川市にまたがる日本最大の炭田だった。が、私は迷うことなく、田川市に行ってみようと思った。理由はいたって単純だった。大牟田市に 田川 という名の小さな居酒屋がある。年老いた女主人が一人で切り盛りしている。私はかつてその女主人に質問したことがある。

どうして大牟田にあるのに、 田川 なんですか  
すると彼女は笑いながら答えてくれた。

私はアンチ大牟田たい

筑豊の中で田川を選んだのは、ただそのときのことを思い出したからだ。

Y 君と私は午前八時に待ち合わせをした。その日は快晴で、雲ひとつない青空で、絶好のド

ライブ日和だった。だが、運転手にとっては少し強すぎる陽射しらしい。彼はサングラスをかけていた。私は助手席に坐り、地図を片手にナビゲーターを務めるつもりだったが、あまり役に立たなかった。

大牟田川を超え、左手に三井化学や三井精錬工業などの工場群を眺めながら北へ進む。国道一〇号線に出て、ひたすら東へ向かう。この辺りは古墳群があり、工場とは無縁な緑地が広がっている。よく幽霊が出ると噂されている上内峠を超え、熊本県へ入る。南関インターチェンジで九州自動車道に入る。私はいつになくはしゃいでいた。さまざまな期待を抱いていた。三井鉱山が一寸の躊躇もなく壊してしまった、炭鉱の原風景のようなものが筑豊にはきつとあるに違いない。

筑豊にはたくさんのボタ山があるらしいよ と私。

らしいね

目の前に、常にボタ山があるんだから、炭鉱の歴史を忘れることなんてできないよね

かもね

田川市石炭資料館には、炭住を復元してあるらしいよ。やっぱ筑豊は違う、大牟田と違うよ。彼は無口な男で、私の話に短いあいづちを打つばかりだ。が、彼も心の中でははしゃいでいるらしかった。写真があまり好きでない彼が、カメラを携帯していた。

福岡空港から飛び立つ飛行機が左手の空に見えるはじめた。福岡インターチェンジで、九州自動車道を降り、国道二〇一号線に出る。糟屋郡を突抜け、篠栗というところで、八木山バイパスに乗る。周りを山々に囲まれ、これまでの単調な風景ががらりと変わる。山がすこく近い。

わあ、筑豊ナンバーだあ

前後を走っている車のナンバープレートの筑豊という文字を見るだけで心がときめいた。当たり前前だろ。ここは筑豊なんだからと、彼は冷静に言った。

筑穂トンネル、九郎原トンネルを抜け、国道六〇号線に出る。さらに東へ向かい、遠賀川を超える。飯塚市を突抜け、私たちは田川市に隣接する嘉穂郡庄内という町で、とうとう道に迷った。どこかで右折をすれば田川市に入ることができるのだが、それがどこなのかわからない。とりあえず近くのショッピング・センターの駐車場に車を止め、地図に目を凝らした。国道二〇一号線にふたたび交わる道がある。地図上ではそれと分かるのだが、道路を走っていると、よく分からない。

中年の女性が買い物袋を両手に下げ、駐車していたショッピング・センターから出てきた。私は彼が持っていた地図を引ったくり、車を出た。

あの、ちよつとお尋ねしたいのですが、国道二〇一号線に出るにはどう行けばよろしいのでしょうか

国道二〇一……どげんかねえ

田川に行こうと思っっているのですが

田川ね。そんならこの通りば、ま一つすぐ行くと、三つ目か四つ目の信号のところにか道路のあるけん、そこば右に曲がんなさつとよか

あ、そうですか。三つ目か四つ目ですね。ありがとうございます

どこから来なさつたと

車に戻りかけた私に、中年女性が言った。  
大牟田からです

はあー、大牟田から。遠かったろだん

ええ、まあ

田川には何しに行きなさつと

石炭資料館に行こうかなと思っっています

あー、石炭資料館

ついでに資料館への行き道はご存知ないですよ

わからんねえ

そうですか。ありがとうございます

私はベコリと頭を下げ、車に戻った。

三つ目か四つ目の太か道路路ば右 だって

助手席にすべり込みながら、私は中年女性の言葉をくり返した。

あいまいだなあ

彼は笑いながら、エンジンをかけた。小さな交差点をいくつか過ぎると、頭上に案内標識が掲げられていた。北進すれば直方市、西へ進めば飯塚市、東へ進めば田川市、私たちは右折し、

東へ向かった。国道二〇一号線に出て、やっと田川に入った。私は車窓の風景に目を凝らした。

ポタ山は………。

ねえ、ポタ山は？

運転に集中している彼に問いかけた。

………ないね

ああ、そうか。巨大なポタ山ができ上がっていったのは、もう半世紀前のこと。ポタ山には



植物が生い繁り、おいそれと天然の山と区別がつかない、と何かの本で読んだことがある。ということは、かつてそこに住んでいた人ならば、それが天然の山ではなくボタ山であることを知っているだろうが、若者はたとえいつも目にしていても、それがボタ山であることを知らずに生活をしているかも知れない、と思った。

私たちは田川に入った。

資料館には、どう行けばいいんだろうか

彼が言った。

大丈夫。とにかく近くに行ったら、赤い煙突が見えるから。赤い煙突を目指していったら、たどり着くから

田川市石炭資料館に隣接した石炭記念公園には三井田川炭鉱の二本の煙突が保存されている。

赤い煙突を目指して行けば米のまんまが暴れ食い

かつて人々はそう信じ、家を出、町を出た。三井三池炭鉱を含む大手炭鉱においては、その頃の通りの生活ができた。米のまんまが暴れ食いどころか、社宅の敷地内に映画館があるほどの盛況ぶりだった。かつて大牟田の繁華街も、青越しの金は持たぬ、ケンカっ早い炭鉱労働者でいつも賑わっていたという。しかしここ筑豊においては違う。筑豊中小炭鉱の労働賃金は飢餓的賃金と言われていた。

表1は筑豊中小炭鉱のひとつであった富士月隈炭鉱の給料明細書である。上半期、下半

期というように、月を二期に分けて一度に支払うのが中小炭鉱では普通であった。この明細書の持ち主である炭鉱労働者の一ヶ月の給料は、上期と下期を合わせて、四三〇八円である。一方、表2 次頁 は三井三池炭鉱の初任給表 一九五七年に三井鉱山と三池炭鉱労働組合との間で協定されたものだ。もつとも若い十五歳の炭鉱労働者の初任給で一六四〇〇円である

これは基本給だ。表3 次頁 に示している通り、これに職種給、能率給、出来高給……と加算される。

富士月隈炭鉱の彼の給料明細書を見ると、出勤日が非常に少ないことに気付く。彼はその理由を上野にこう話している。もっと出勤できるといいのですが……。どうにも仕事  
がひどくて……

これにつづけて、上野 は次のように記している。 極度に悪い坑内条件の中での平均十二時間という採炭作業は、まだ二十五を過ぎたばかりのいかにも頑健そうな青年にとつても、月十八方が精一杯なのだ。たとえ今の倍の出勤方数、三十六方働いたところで、まだ一万円にさえならぬではないか。いやそれどころか、明らかに栄養失調だとわかるその黒くむくんだ肉体は、やがて十八方の出勤にさえ堪えられなくなる

だろ  
う

2

赤い煙突が見えはじめた。

田川市資料館は赤茶色の煉瓦造りの三階建の建物だった。着いたときには、十一時を少し過ぎていた。中へ入ると、窓口から中年の男性職員がひょっこり顔を出した。

どこからいらっしやいましたか！ と、笑顔で彼は言った。

大牟田からです

私も笑顔で返した。

それはそれは、遠くからお疲れさまでした

男性職員はそう言いながら、チケットを切った。

田川市石炭資料館の見所は、筑豊炭鉱の炭住を復元しているところだ。炭鉱機械が展示されている箇所を早足で見つめて、奥へ進むと、それはあった。明治期、大正期、昭和期に分けて展示されている。復元された炭住は木造で、畳が敷き詰められている。箆箆や卓袱台などが配置され、今すぐにもここで生活できそうだ。土間の炊事場にモンペをはいた傭人形が立っている。嘘っぱちだ。違う。筑豊の炭住はこんなもんじゃない。筑豊中小炭鉱労働者たちの証言が残っている。

壁もなければ戸もない、それこそ吹きさらしのスッポンボンだった

3

六畳一間きりの社宅はもらえましたが、それがまたオバケ屋敷のような納屋で、一日目の夜の蒲団のなかからまるまるなお月さまが拝めました。二日目の夜は雨が降って寝てお

4

るどころではありませんでした  
六畳ふたまたまをぶち抜いたそのほそながい部屋は、くらくさむく、まるで冷蔵庫にでもはいっているようでした。くちやぶれた障子をがたがたとゆさぶって、身をきるようにこおった北風がふきこんできます。ぼろぼろにやぶれてハラワタのはみだした畳のうえをこなゆきがかぜと一緒にかけまわっていました。そして乱雑にしきっぱなしであるふとんのうえにも。それらのふとんも、畳と同じでポロポロにいたんで綿がはみだし、その綿までもが垢とあぶらでよごれて、どすぐろくひかっています。この部屋でこのふとんにねるの

かと思うと、ぼくは体じゅうの毛がよだちました

5

私の目の前にある、復元されたという炭住の部屋はむしろ住んでもいいかなと、現代の私たちにさえ思わせる、小ぎれいな、こぢんまりとした住宅だ。

なつかしいなあ

突然、彼は呟いた。昭和期の炭住のところで立ち止まり、見入っていた。

え？

彼は炭住の中に入って行った。私もつづいて中へ入った。私たちは玄関の上がり櫃に坐った。

なつかしい？

私が訊いた。

うん

Y君の家、こんな感じだったの

うん

彼の父親は三井三池炭鉱の元炭鉱マンで、四山鉱に下がっていた。彼は幼少時代を四山社宅で過ごしている。そうか。この復元されたという炭住は嘘っぱちではないのだ。つまり三井田

川炭鉱の炭住を復元したものなのだ。

お父さんの仕事、何だったの？ 掘進？

クッシン？ 何それ

掘進も知らないの？ 炭鉱マンの息子のくせに

知らんもん

炭を掘る仕事。いわば先山ね。炭鉱の仕事と一口に言っても、いろいろあるのよ

ふーん

で、お父さんのお仕事は？

知らん

なんで知らないの？ 自分の父親の仕事に興味ないの？

父親も無口だからね。俺も当時は興味なかったし。……今思えば、聞いてけばよかった

今から聞いたら、いいやん

うん

資料館を出て、隣接している石炭記念公園を散歩した。三井田川炭鉱の堅坑ヤグラは赤い塗料で塗られていた。二本の赤い煙突が残っているもの、かつての炭坑町、田川を彷彿とはさせてくれなかった。炭坑の原風景どころか、その面影すらなかった。結局、田川も大牟田と同じじゃないか。私は意気消沈した。私たちは車に戻った。

直方でも行ってみる？

見るに見かねて、彼は言った。

もう、いい。帰ろう

私がそう言うと、彼は車を発進した。

注

1 市原博 炭鉱の労働社会史 日本の伝統的労働・社会秩序と管理 多賀出版、

一九九七年、二三九頁

2	上野英信	日本陥没期	未来社、一九六一年、七〇頁
3	上野英信	追われゆく坑夫たち	岩波書店、一九六〇年、四二頁
4	同書	一一二頁	
5	同書	一四六頁	

### サークル村の失敗

田川から帰ったあとた、私は考え込んでしまった。田川には、私が筑豊に対して抱いていた炭鉱イメージの片鱗すらなかった。インターネットで検索してみたが、炭鉱関連の市民団体もないし、そのようなイベントが催された気配もない。逆に大牟田市や隣接する荒尾市では、ほんの最近のこととは言え、大牟田・荒尾炭鉱の町ファンクラブや万田坑ファン倶楽部といった市民団体が作られ、定期的に、炭鉱跡地でイベントや講演会などが催されるようになった。

私は筑豊をほんの一瞥したに過ぎない。しかし、筑豊に対して私が抱いたイメージは妄想だったのかもしれない、という思いが頭をもたげてきた。では、何が私に、誇大妄想的炭鉱イメージを植えたのか。おそらくそれは、筑豊を描いた、上野英信や谷川雁や森崎和江らの書物、筑豊万葉録、葦書房などの写真集や画集だろう。上野ら、前述の三人は一九五〇年代後半、筑豊に結集し、サークル村という機関誌を発行した。筑豊から、炭鉱をベースに文化を発進しようとした。このサークル村とはいったい何だったのかを探れば、筑豊に対して抱いた私のイメージと現実との落差の謎を解明する糸口が見つかるかもしれない。

一つの村を作るのだと私たちは宣言する。奇妙な村に違いない。薩南のかつお船から長州のまきやぐらに至る日本最大の村である。……

いまや日本の文化創造運動はするどい転機を味わっている。この二、三年のうちに続いた清算と解体への方向を回転させるには、究極的に文化を個人の創造物とみなす観点をうちやぶり、新しい集団的な担い手を登場させるほかに示した。

新しい創造単位とは何か。それは創造の機軸に集団の刻印をつけたサークルである。

サークルとは何か。その発生を民族の伝統のうちに探れば、共同体の下部にあった連帯感とその組織にあるだろう。マルクスが資本制生産に先行する諸形態の中で分析した、共同体のギリシア・ローマ型、ゲルマン型、アジア型という三つの類型は、未来の共同社会組織の機能とその民族的特質を考えるうえに、特に重要であると思われる。まずそこでは戦闘と会議と生産の三種の機能の一つがそれぞれの共同体の特色となっている。

中略 今日資本主義によって破壊された古い共同体の破片が未来の新しい共同組織へ溶け込んでゆく段階であって、そのつぼであり橋であるものがサークルである。中略

サークルの集団的性格は必ずしも解放の方向へうごかず、自己閉鎖しやすいことである。……それは農民の定着性、下級共同体の自衛の姿勢、その規模の狭さなどがある原因

である。……それが、このワクをどうして下から、内側から破っていくかが目下のサークルにとっても最大の問題である。共有感覚がいつのまにか外部に対しての占有感覚になつてしまふという悲劇と戦うためには、単に歴史の分析や論理の補正をもつてしては動かせない部分がある。創造と生活（労働）の律動が一緒でなければならぬという観点をまともにムキにおしすすめて、創造の結果だけでなくその全過程に集団の息吹をこめようとするものがき

なければならぬ。 中略

集団という一個のイメージを決定的な重さでとり扱うことと、創造の世界でのオルガナイザーを創造の世界で組織すること 私たちの運動はただそれだけをめざしている。

これは詩人、谷川雁が書いた サークル村 創刊宣言文だ<sup>1</sup>。機関誌 サークル村 を創刊した九州サークル研究会は一九五八年、福岡県中間市に発足する。中心人物である上野英信、谷川雁、森崎和江は当時、日本共産党員だった 後に三人とも除名処分を受ける。

彼らが目指したものは宣言文にある通り、創造の世界でオルガナイザーを創造の世界で組織すること、すなわち芸術作品を創造することによって、社会変革を起そうとする芸術運動だった。機関誌には坑夫の採炭現場の様子、炭住の暮らしぶり、炭鉱社会に生きる女性の暮らしや考え方などを詩や小説につづり掲載していた。空間としては、会員の討論の場、坑夫たちのサロンとしての場を提供していた。サークル村 は常に熱気にあふれていた。それを生み出させつづけたのは谷川雁の指導力と彼の方針に対する共産党の圧力に抗する会員の結集であった<sup>2</sup> という。

しかし徐々に 思想の科学 などを中心に サークル村 への批判が起こる。あたかもサークルだけで社会変革ができるかのような幻想を抱いている<sup>3</sup> とか 創造とは結局個人の所産につきるのであり作品がすべてを決定するのだ。しかるにお前たちの作品は……<sup>3</sup>

とか 現実から浮いている。抽象的である。難解である<sup>3</sup> とか、方々で攻撃された。

これらの批判は必ずしも的外れなものではなかった。というのも会員らは創作活動よりも



集まることに比重をかけるようになっていた。そもそも作品創造が目的であったにも関わらず、やはり中心人物が共産党員であったことも作用してか、会員が作品創造より政治的・社会的効率そのものへ意識を集中させがち<sup>4</sup>になっていた。

そんな中、上野は当初掲げた目的から逸脱しはじめたサークル村にうんざりし、朝っぱらから中華料理をみたい<sup>5</sup>と言ひ残し、筑豊を去る。さらにサークル村への共産

党の攻撃がはじまる<sup>6</sup>。会員らは共産党とサークル村の板ばさみになった。そのことが原因でサークル村の事務局員のひとりが発狂し、精神病院へ送られた。そして後にはめっちゃくちやにこんぐらがったままの経理が残された。徐々に会員らはサークル村から遠のいていった。谷川は当面の事務処理はしたものの結局は書記的な仕事は創造を志すもののやるようなことじゃないよ<sup>7</sup>と音を上げ、それを放置した。

一九六〇年、機関誌サークル村は休刊を宣言。わずか一年九カ月で終わった。

サークル村の芸術運動は非常に短期間に行われたもので、今ではいささか自分勝手な運動のようにも思えなくもない。しかし当時、その影響力は多大なものだった。全国から彼らの方針に賛同した文化人や学生らが筑豊にやってきた。とりわけ谷川雁のオルガナイザーとしての影響は大きかった。彼が一九五九年に発表した「工作者宣言」は全共闘のバリエーション<sup>8</sup>となった。

彼らを書いた作品に多大な影響を受けていながら、サークル村などという芸術運動があったことも、彼らが共産党の党員であったことも知らなかった。それらの作品はどれも一九五〇年代後半から一九七〇年にかけて書かれたものだ。今から三十年以上も前の筑豊を、私は今日の筑豊に投影させていた。

一方、一九六〇年代の三池ではこのような運動はいっさい起こっていない。が、前述した通り、今日になって炭鉱に関連する市民団体がふたつも設立されている。そして現在の筑豊で、炭鉱文化は無視されていると言っても過言ではない。筑豊と三池の、この時間軸のズレはなんだろう。

まず筑豊炭鉱と三池炭鉱の本質的な違いを検証すべきだと思った。

注

- 1 森崎和江 闘いとエロス 三一書房、一九七〇年、三五頁 三六頁
- 2 同書、六四頁
- 3 同書、六二頁
- 4 同書、六五頁
- 5 谷川雁 影の越境をめぐって 六〇年代論草補遺 潮出版社、一九七七年、一〇八頁
- 6 同書、一〇九頁
- 7 内田聖子 谷川雁のめがね 風濤社、一九九八年、一〇〇頁
- 8 同書、八三頁

## 筑豊あるいは三池炭鉱

そもそも筑豊炭鉱、三池炭鉱とはいったいどのようなものだったのか。一九五五年、筑豊には二四六坑の鉱山が存在していた。そのうちの二二五坑が中小炭鉱であり、二一坑が大手炭鉱だ<sup>1</sup>。筑豊から生まれた多くの作品は中小炭鉱を背景にして生まれている。筑豊炭鉱と三池炭鉱の主な相違点を一つの表にしてみた。

### 一 鉱山会社

一八六九年、鉱山解放令が發布された。それまで藩営であった諸鉱山は所在住民に了承を得、願書を出せば誰でも採掘できるようになった。するとまたたく間に小坑が乱立した。これに対処するため、明治政府は一八七一年、鉱山心得書を發布。この法令によって、鉱物はすべて政府の専有に属するところのものとなる。民間人の採掘は政府からの請負として許可された。

翌年、さらに日本坑法が發布される。これによって、政府に願い出て借地を取得すれば誰でも鉱山を経営することができるようになる。日本の鉱山は本格的な自由掘りの時代を迎えた。

政府はまず三池、高島、北海道雄沼、幌内などに官営炭鉱を発足させ、外国技術の導入に重

点を置いた。しかし筑豊は日本最大の炭田でありながら、その対象から外された財団法人西日本文化協会 福岡県史 通史近代産業経済 二〇〇〇年。

一八七三年、三池では官営三池炭鉱が発足。五十人の囚人が労働力として投入された。一八八三年には三池集治監が設置される。西南の役の国事犯であった二、七六〇人を収容するため東京と宮城に内務省直轄の集治監が設置された。東京集治監と宮城集治監が満員になったという理由で三池集治監が設置されたのだ。それから十六年後、官営三池炭鉱は三井家に払い下げられ、三井三池炭鉱が誕生する。三井は囚人強制労働の持続を要

求し、政府はそれを許可した。その年の三池集治監の囚人の数は二、八八八人<sup>2</sup>。三池炭鉱における炭鉱労働者の数で見ると、囚人坑夫は全体の八十六%を占めていたという<sup>3</sup>。

筑豊では、日本坑法 発布以来、一攫千金を夢見る実業家らが競って借地獲得をくりひろげ、結局、小規模な鉱山が乱立するという事態を招いていた。また三井三池炭鉱が発足した年には、筑豊にも住友、三菱、三井などの中央資本が進出しはじめた 永末十四雄 筑豊 石炭の地域史 日本放送出版社、一九七三年。

日本坑法 発布以降、常に一鉱山一炭田という体制をとってきた三池に対し、筑豊には常にいくつかの大手、中小、零細炭鉱が入り乱れていた。

## 二 貧困

戦後の三池の炭鉱労働者は貧困とは無縁の生活を送ってきた。社宅はただも同然の家賃であり、そのうえ電気、水道代はただであった。また、社宅の敷地内に映画館までもがあった。

その一方で筑豊の炭鉱労働者とその家族は絶対的貧困の中に身を置いた。彼らの様子を上野はこう記している。もはやだれひとりとして健康な者はなかった。だれもが強度の栄養失調におちいって雇人のようにみえた<sup>4</sup>

### 三 公傷

戦後の三井三池三池では、公傷であれ私傷であれ、ケガをしている坑夫の入坑は許されなかった。が、坑夫の給料は出来高制なので、坑夫は多少のケガであれば就労したいと思う。しかし会社は決して就労を許さなかった。また会社側としては坑内事故が少ないものと見せかけたかった。その結果、公傷の場合は労働者に労災を申請させず、一応は出勤させ、坑外で一日適当に過ごさせ、手当てを支給するという、独自の形態を取っていた。

筑豊では私傷で休めば即クビ。どんなにひどい公傷でも十日も休めばむりやり勤労課にひっぱってゆき、包帯をひきはいで傷口を調べ、もうなおつとるから仕事に出ろと、うむを言わさず強制的に入坑させる<sup>5</sup> ヤマもあつたという。

### 四 生産基盤

三池では採炭から坑外搬出、選炭に至るまでが機械化されていた。昭和初期にはすでに出炭能率の向上と経費のコストダウンに成功している<sup>6</sup>。

筑豊の中小炭鉱では終始、原始的な、人力にすべてを頼った採炭を行っていた。採炭はもと

より、運搬のためのコンベヤー、選炭機さえもなかった。ある中小炭鉱に下がった上野は次のように記している。<sup>7</sup>

そのたびに私の鼻先をかすめるようにして、真っ黒い塊のようなものがパツと走りすぎていった。それは石炭を満載したテボを背にして駆けてゆく坑夫たちに相違なかつた。しかし現実には、なにかに追われて必死に逃げてゆく闇の塊としか思えないほど、それは黒い、重い、影そのものであった。足もとをかすめるカンテラの火が、その黒く重い影の、消えてゆく生命のように微かに尾をひいて流れ去る。勢いをつけようとしてか、それとも、のめりこむ体の平衡をとろうとしてか、バシッ、バシッ、と溝の両側のボタを力いっぱい掌でたたきながら走ってゆく音が、その黒い重い影の断末魔の羽ばたきのように、腸をえぐる悲しいひびきを残して消え去る。そして、たえだえの荒い思っただけが、いつまでも、呪詛の炎のようにたちこめてこだましつつづける。

テボかろいの坑夫たちは、どんなに急傾斜の坑道にかかっても、決して速度をゆるめなかつた。いや、ゆるめるどころか、ますます速度をはやめて走った。それは全くあのサーカスの、空中を駆けめぐるオートバイのように、一瞬の弛緩も許されない緊張と速力の連続である。一度でも気をゆるめたが最後と彼らはいう。たちまち足もとが気になりだして必ず大けがをしてしまう。たとえころばなくても、もう二度とふたたび走ることはできない。最初の勢いが消えたら、それで全部が終わりさ。明日はもう仕事をやる以外にみちはないしたがって彼らは、死にももの狂いに走りつづける。石炭をかつぎあげての帰り途にも、息をつごうともせず、死にももの狂いに坑道を駆けおりてゆく。それで

もなお 走らんかつ！ と、開の奥から職制の怒声がとぶ。彼らは矢のようにとぶ。やがてまず真っ先にアキレス腱をやられる。つづいて膝の関節をやられて、歩くこともできなくなる。もし奇蹟的に回復してふたたびテポカろいを始めたとしても、すぐに、しかも最終的に、彼は倒れる。心臓を破壊して。

超低賃金で坑夫を働かせていた鉱山にとっては機械投入によるコストダウンをはかるよりも、人間投入のほうが安あがりだったのだ。

## 五 同業団体

三池では日本坑法発布後、官営三池炭鉱へと、常に一鉱山一炭田の体制をとってきた。三池炭田は明治政府あるいは三井鉱山の独占だったため、同業団体は存在しない。

筑豊では一八八五年に、資本家らの属する筑豊石炭鉱業組合が発足している。これは日本の労働史上初の同業組合だ。一九三〇年にはそれから分裂するかたちで、中小炭鉱の資本家が属する筑豊石炭鉱業互助会が発足する。昭和恐慌時に、大手炭鉱と中

小炭鉱との間で不況対策をめぐる対立が生じ、組織的に分離することになったのだった。<sup>6</sup>

また市場において、大手炭鉱と中小炭鉱はまったく別のシステムを取っていた。採掘された石炭は積地問屋の手で輸出される。地場問屋が各地からやって来て、問屋、小売商、工場と取り引きする。三井物産は積地問屋と地場問屋の両方を担っていた。三菱鉱業はこれに加え、販売

をも行っていた。多くの中小炭鉱はこうした石炭市場との直接的な関わりは持てなかった。筑豊の炭鉱業界はもともとこうした二重構造を抱えていた。筑豊石炭鉱業組合が分裂したことは当然の成り行きと言えよう。

## 六 労使関係

筑豊の炭鉱労働者の不幸の根源は、その飢餓的低賃金にある。大手では毎日、または二、三日おきに賃金の概算払いをしていた<sup>8</sup>。中小炭鉱ではこのような概算払いはなされず、月を二期に分けて支払うのが常であった。

一般的に、炭鉱では現金に代わる私製切符を発行していた。それらは切符あるいは金券と呼ばれた。給料の一部はその私製切符によって支払われた。それは鉱山会社の経営する売勘場と呼ばれる売店で使用することができた。三井鉱山の経営する売勘場、三池商事は日用品、文房具、食材など、日常生活の必需品を完備し、いつも人々で賑わっていたという。

筑豊でも給料の一部、ひどい場合は全額が私製切符によって支払われた。だが、筑豊中小炭鉱の売勘場は物品に乏しかった。経営者がほんの少ししか仕入れをしないので、炭鉱労働者の一部しか品物にありつくことができなかった。筑豊中小炭鉱の売勘場の様子を上野はこうつぶしている。もしあなたが金券の発行されているヤマを歩くことがあれば、あなたは一合の醬油か一束の乾うどんを手にいれるために夜あけまえから売店のまわりをとりまいて

4

いるみじめな主婦や子供たちの行列を、きつとみかけるにちがいない<sup>9</sup>。そのうえ金券を現金化するには最低一割、普通四～五割の手数料が取られていた。そ



れでも万が一、やっと品物にありつければ、日用品は酒や醬油まで水増しし、主食も巧みに目減りさせるという乱暴な商法<sup>9</sup>がまかり通っていたという。

## 七 鉱員社宅

私の実家は大牟田市小浜町という、炭住が町のほとんどの地域を占めていたところの一角にある。だから子供の頃、同級生の大半が炭鉱労働者の子供であった。私がもつとも仲良くしていた女の子の父親も炭鉱マンだった。子供の頃、しょっちゅう彼女の家に遊びに行った。木造の古い社宅に、不つり合いなモダンな家具が並び、車が三台もあって、テーブルにはいつも器にこぼれんばかりの茶菓子が盛られ、食べ放題だった。開放的で、いつも彼女の姉弟たちの友達で賑わっていた。私が取材をした三井三池の元炭鉱労働者の妻らは、社宅はよかったと、口をそろえて言う。そしていかに開放的で、友好的な雰囲気であったかを懐かしそうに語る。

明治初期、炭鉱には、納屋制度<sup>一</sup>と呼ばれる、炭鉱労働者の住む納屋を管理する制度があった。納屋の頭領は鉱山会社から坑夫の雇い入れを委託され、坑夫の生活から就労までの、すべての実権を握っていた。彼らの役割は、イ 坑夫の募集・雇入れ、ロ 坑主に対し坑夫の身の上を保障、ハ 所属坑夫の繰込み・作業の割当て、および現場監督、ニ 坑夫が死亡、負傷・疾病のときは、相当の保障を与える。ホ 坑夫の日常の言動に注意し逃亡を防ぐ、ヘ 賃金を一括して坑主より受け取り各人に給付することであった。

このような制度は大手炭鉱では明治一九〇〇年頃には消滅したが、中小炭鉱では一九六〇年代まで受け継がれた。それは頭領の役割の重点のほとんどが、ホ 坑夫の日常の言動に注意し

逃亡を防ぐ ことに注がれたからであろう。

筑豊の炭鉱労働者は、ヤマの圧制に耐えきれず、たびたび逃亡を謀る。彼らに退職の自由はない。それは 肩入金 という前借金制のためである。ある炭鉱に がめつく 就職する

際、坑夫が裸一貫でやって来ても一応の生活ができるよう、坑主から金を渡される。それはそっくりそのまま坑夫の借金となる。久しく現金を目にしない坑夫は、それに手をつけずにはおれない。久々に米を食い、酒を飲み、映画を見る。坑夫として働きはじめても今日の米を欠くほどの低賃金では、いつまでたっても借金を返済することができない。坑夫の逃亡は、すなわち借金の踏み倒しとなる。逃亡が発覚し、連れ戻されれば 見せしめ が待っていた。筑豊では納屋制度独特の拷問用語が残っている。例、黄な粉にする

＝裸身を土間に叩き伏せて引き摺り回すこと <sup>11</sup>。下がり蜘蛛 <sup>12</sup>＝逆さ吊りのこと

一九五〇年代の筑豊の炭住の様子を上野はこう記している。露地には人影もなかった。両側の家畜小屋のような社宅からも一声ひとつ聞こえなかった。だが、もちろん人間がいないのではない。人々はただ寝しずまっているだけなのだ。やがてもう正午に近いころなのに、まだ起きずに寝っづけしているのか、それとも、はやばやと昼寝をはじめているのか、男も女も、大人も子供も死んだようにぐったりと寝転がっていた。中略 古い坑夫たちが完全に労働意欲と体力を喪失してしまつて、おどそうと、すかそうと、ほとんど動かなくなつてしまつたからである <sup>13</sup>

その様子はまるで 無縁墓地のように陰気でもの悲しい <sup>14</sup> という。

坑内は熱く、三十四度から三十六度くらい、埃っぽく採炭の際、炭塵が舞うので当然だ、真っ暗で、決して居心地のよい場所ではない。その上、坑内の至るところから常にガスが噴出している。いつ事故が起きても不思議ではない坑内で、安全が保たれているのは、排気・通気設備が整っているからだ。排気は坑内の汚れた空気を外へ排出させ、通気は坑内に新鮮な空気を送り込む。閉山するまで、大牟田市の至るところには排気堅坑がそびえ立っていた。

一方、筑豊の中小炭鉱の場合、そのほとんどがいわゆる狸掘りだ。露頭から開坑し、掘れるところまで掘って、あとは放棄する。排気設備も通気設備もない。石炭は酸化すると発熱する。通気がちゃんに行われていれば、熱は空气中に吸収される。が、それが不十分であれば、自然発火し、火災、あるいは爆発事故を招く。また筑豊炭鉱は薄層採掘が多く、そのため坑夫は寝掘りを強いられた。狭い、熱い、ガスの充滿した坑内で、平均労働時間十二時間もの時を過ごさなければならぬ労働は、彼らにとって苦役そのものであっただろう。

## 九 労働争議

三池においてはたびたび大規模な争議が起こっていた。特筆すべきは、英雄なき百十三日の闘い。一九五二年と戦後最大の労働争議といわれている三池争議。一九五九年から六〇年である。

一九五二年八月、三井鉱山は五、七三八人、三池＝一、七二二人の人員整理を行う合理化

案を提示した。さらに八月二十七日から三十日まで希望退職を募集し、三十一日から九月四日まで退職勧告、そして解雇という日程を発表していた。これを受け、三池労組はすぐさま一人デモを行った。炭婦協、労働者家族、そして三池職組もそれに加わった。会社側は何度か修正案を提示したが、三池労組は合理化案の白紙撤回に固執した。

八月二十七日、二十四時間ストははじまった。このような三池炭鉱のストは会社のみならず、三井化学、東洋高圧、三井金属、九電発電所などの地場産業にも多大な影響を与えた。当時、それらの企業に対しては一日三千トンもの石炭を供給していた。貯炭場の石炭は底をつき、佐賀、長崎などの中小炭鉱から石炭を買いつけるありさまであった。

三井鉱山は十月二十四日、とうとう解雇撤回を提示した。三ヶ月以上つづいた合理化反対闘争、いわゆる英雄なき百十三日の闘いは三鉱連 全国三井炭鉱労働組合連合会、三池労組の勝利に終わった。

英雄なき百十三日の闘いが終わり、三池労組は闘えば、必ず勝つという自信を得た。一九五六年、三池労組は一千項目の職場要求を三井鉱山を提示した。これを利用して、賃金引き上げ闘争を有利に発展させようと考えていた。同年三月五日、労組は二十四時間ストに突入した。

十八日後、会社側は賃金引き上げ要求を受け入れた。三池職組はストを中止した。三池労組は一千項目の要求の受け入れを要求し、ストをつづけた。

最終的に一千項目の職場要求を三百項目を絞り込むことで、四月十五日、三鉱連、三池労組は会社と妥結に達した。三池労組はストを中止、会社側はロックアウトを解いた。四十三日間に渡って繰り広げられた職場闘争は、またもや三鉱連と三池労組の勝利に終わった。

三百項目に絞られた職場要求は効力を大いに発揮した。組合員は現場で要求をつき付け、その場で実現させるという闘争方針をとるようになった。現場での権力が会社側から組合側へ、逆転した。三池労組は理論武装にも力を入れた。当時、九州大学の教授であったマルクス 資本論の訳者、向坂逸郎氏を中心とする学者グループを呼び、勉強会 向坂教室を開いていた。マルクス経済学を叩きこまれた職場の活動家が数多く育っていった。

そして一九六〇年三月、三井鉱山はふたたび一、二〇〇人の首切り合理化案を打ち出した。これに三池労組は無期限ストで対決した。しかしじきに組合内部に反発する声 職場闘争はやるべきだが、組合の闘争方針は階級闘争だ。職場闘争ではない、闘争至上主義だ、このままでは合理化撤回どころか、会社が潰れてしまう 15 などが上がりはじめた。そして 批判派 菊川派、円仏派、山隈派 が生まれる。

三月十五日、三池労組は臨時の中央委員会を開催した。会場となった大牟田市民体育館は異様な熱気に包まれていたという。批判派勢力のリーダー、中央委員会の菊川氏 菊川派 は演壇で演説した。

今次合理化闘争の炭労・三池労組の指導には重大な誤りがある 16

菊川氏は戦術転換をすべきだとうたったえ、全組合員の無記名投票を再三申し出た。が、三池労組はそれを却下した。すると菊川氏は突如立ち上がり、言い放った。

われわれは組合のため、組合員とその家族の統一と団結をはかるため、戦術転換の無記名投票が、今一番正しいことだと確信して提案した。これをむげに多数の力で中央委での採決強行を認めるわけにはいかない。よってわれわれはこの採決を拒否する 16

そして退場した。すると彼につづいて批判派の中央委員は席を立ち、退場した。新聞記者と

してその場にいた宮村眞澄はそのときの様子を それまで、会場を響する罵声と怒声の野次が飛びかっていたが、その瞬間、静まり返った。退場する者もこれを見送る者も、何かにとりつかれたようで、沈黙の状態であった<sup>17</sup>と、述べている。

組合が完全に分裂した瞬間だった。

その二日後、三池炭鉱新労働組合が三、〇六五人の組合員によって結成された。十日後には四、八〇〇人に拡大した。これを受け、会社側は新労の組合員だけを対象にロックアウトを解除した。三池労組は新労の組合員の入坑を阻止しようと、町は戦場と化した。三たびの南新開沖戦、久保清刺殺事件など。

三池争議は安保闘争と足並みをそろえ、全国闘争へと広がった。全国から応援にかけつけた総評、日本労働組合総評議会、だけで三十万人に達し、全学連の学生、報道陣、ジャーナリストらが三池にかけつけた。そして事態は三池争議最後の決戦場となった。ホッパー攻防戦へと向かう。

七月、三池労組のビケ隊千人が三川鉱ホッパーを完全に占拠していた。それを受け、三井鉱山はホッパーへの立入禁止仮処分を申請した。三川鉱、四山鉱で採炭された石炭は三川鉱斜坑からベルトコンベヤーで搬出され、そこで選炭機にかけられる。このホッパーが作動しない限り、いくら採炭しても石炭は商品にはならない。が、日増しに攻防戦に参加するビケ隊の数は増え、最終的には二万人にも膨れ上がった。西日本の各地から八千人の警官隊が集められ、三池に導入された。だか、もう警察の手に負えない様相を呈していた。労働争議の限界を超えていた。ビケと警察の正面衝突は惨事になる。警察は三池労使のトップ会談を正式に要請した。

それに対し、三池労組は一二〇〇人の解雇撤回と会社の警告書撤回という条件付で会談に応じる、と返答した。会社側は三池労組の態度に誠意が見られないと返答。トップ会談は凍結した。

そして第二次仮処分執行が決定した。このまま行けば流血の惨事が待っている。当時の福岡県知事、鶴崎多一は中労委、中央労働委員会、警察庁、労働省に、全労は中労委、自民党、社会党、三鉱連に、日経連は中労委、労働省、炭労、三井鉱山、警察庁に事態取捨の助けを求めた。裏工作が水面下で進められたのだ。<sup>18</sup>

七月二〇日、ホッパ一休戦が提示された。三池労組、ビケ隊にはわれわれの確固とした団結の力が警察の足を止め、ホッパ一休戦に追い込ませたと、知らされた。ビケ隊はこれを三池労組の勝利ととった。

こうしてホッパ一攻防戦は終結した。その後、中労委による三井労使の斡旋作業がはじまった。結果、同委員会は次の斡旋条項を提示した。

- 一、解雇問題を取捨のため本日十日以降一カ月の整理期間をおく。
- 二、①同期間を経過した時は会社は昨年末昭和三十五年十二月の指名解雇を取り消し、解雇該当者は自発的に退職したものとする。②同退職者には所定の退職金加算金を含むのほか、特別生活資金として二万円を加給する。
- 三、指名解雇を不当労働行為として争おうとする者は、争議行為などの実行使に訴えることなく裁判所もしくは労働委員会に提訴することを妨げない。
- 四、右の離職者については、会社は極力就職斡旋につとめること。政府もまた就職訓練など万全の措置を講じ、失業者を出さないように勤めること。

五、労使双方は生産再開委員会を構成し、スト、ロックアウト解除、就労対策を取り決めること。<sup>19</sup>

三池争議は終わった。三池労組は負けた。宮村眞澄、三池争議の軌跡、葦書房、一九八五年。それから三年後、悲劇が起こった。一九六三年十一月九日午後三時十五分、三川鉱で炭塵爆発が起こった。炭車が暴走し、脱線した。レールと車輪の摩擦で火花が散り、揚炭ベルトに付着していた風化した炭塵に引火したのだった。木村英昭、ヤマは消えても、葦書房、一九九七年。

日常的に坑内を掃除していれば、このような事故は起こらなかったであろう、と言われている。そのころ三井三池炭鉱は一年余りつづいた三池争議の損失を取り戻すため、出炭量上げるのに躍起になっていた。事故の原因は保安を無視した生産第一主義にあった。三池争議の敗北で、組合の力は弱体化していた。この事故は四五八人の殉職者と八三九人の一酸化炭素中毒患者を出した。

私は取材の中で、分裂以前の三池労組の批判派の一派であった山隈派のリーダー、山隈末喜氏に会うことができた。彼は社宅を買い取り、旧宮ノ原坑の堅坑ヤグラが見える一角にひっそりと住んでいた。八十二歳になっていた。一昨年、脳梗塞で倒れ、コーヒを飲む手が、カッブから中身がこぼれんばかりに震え、指の何本かが麻痺していた。私は彼にこんな質問をぶつけてみた。

今、振り返って見られて、三池争議はご自分にとって、何でしたか  
彼はニヤリと笑った。唇が少しだけ、歪んだ。

結局、第一組合も第二組合も、会社を利用されたつちゅうことたい



そしてこう付け加えた。

これまでいろいろなマスコミが三池争議のドキュメンタリーを作ったりしてきた。マスコミはいつも第一組合の側から描く。第二組合の人間は裏切り者であり労働者ではない、という考え方さえある。第一組合の人間も働いた。第二組合の人間も働いた。それだけは共通している。第二組合の人間も同じ労働者でいたい

山隈氏の言葉が耳から離れない。

三井鉱山は三池労組 第一組合 組合員に生産疎外者というレッテルを貼り、結果的に彼らを指名解雇した。争議後、三池新労 第二組合 は会社と 平和協定 を結んだ。これはストをしないで生産に協力する。その代わりに生産報償金を支給するという内容だ。言わば、スト権の放棄である。三池労組は平和協定を結んでいないわけだから、三池労組の組合員に生産報償金は支給されない。三井鉱山は賃金格差をつけ、生産疎外者という被差別集団を作ることによっておとなしい労働者を育て上げ、反抗的な労働者を除外することに成功したのである。三井鉱山のやり方は百年前とまったく変わっていなかった。

筑豊で労働運動はたびたび起こったが、根を張ることはなかった。組合とはいいなから、それは労働者の同志的結合の域を出なかった。また筑豊で起こる労働闘争は単なる職場闘争

20

ではなかった。上野は彼らの闘争をこう記している。いわばムキダシの憎悪を敵討ちのかたちでぶっつけようとする。闘争の経験を持たぬ、意識の低い、おくれた中小鉱労組を闘争に入れると、大手労組が十年かかって闘いとった権益を一気にして獲得しようとしてあせり、また獲得できるかのごとき幻想を抱くために、取捨のつかぬ泥沼闘争に陥りがちだ。中略 彼らはそのことによって恨みを晴らすことが目的なのだ。権利の獲得、力闘

係の転覆は、闘争の目的ではなく、復讐の手段なのだ

2  
1

#### 十 労働組合

三池労働組の支持母体は社会党であった。三池争議当時の社会党委員長であった浅沼稲次郎は、ホッパ一攻防戦の繰り広げられていた三川鉱で三池の闘いは社会党の闘いである。三池の労働者諸君がこの数ヶ月、団結によってあらゆる迫害、権力の圧力に耐えて、闘っている姿に敬意を表する<sup>22</sup>と演説している。

筑豊では山の圧制に耐えかねた労働者たちが助けを求めて、たびたび香月町の共産党を訪れていたという<sup>4</sup>。

#### 十一 第二組合への転向

三池炭鉱労働者の三池労働組から新労働組への転向は、前述した通り、闘争至上主義であった三池労働組の方針への批判というかたちからはじまったように見える。が、実態はそれほど単純ではないようだ。

三井三池炭鉱の元炭鉱労働者であり、三池争議当時、第一組合の組合員であったS氏は組合を分裂させたのは会社ばかりではない、別組織。人間関係をうまく利用して、組合分裂ははかられたと、私に話してくれた。

大牟田市で自動車修理会社を営むH氏によると、当時、父親が第一組合所属か、第二組

合所属かということをめぐる就職差別があったという。彼の父親は三井三池炭鉱の元炭鉱マンで、三池争議時は第一組合の組合員であった。H氏は就職の面接試験の際には必ず、父親について訊かれたという。当時、父親が第一組合である以上、まともな就職は望めなかった。息子のため、彼の父親は第二組合に転向した。するとH氏はすぐさま大牟田市役所に就職が決まったのだ。

筑豊では本来、分裂するほどの大規模な組合は存在していなかった。が、組合ができるや否や、会社側は御用組合を無理矢理作らせた。第二組合勧誘も、脅迫同然のやり方であったという。<sup>23</sup>

## 十二 差別

三池も筑豊も日本の至るところで中国人、朝鮮人に対する差別行為があったことは周知の事実だ。三池では民族差別としてはこれに加え、与論島出身者の炭鉱労働者に対する差別があった。大正時代のある新聞は「与論島という特殊部落」という記事を掲載している。<sup>24</sup>

その記事の中で与論人はもっぱら血族結婚をしている、石炭の粉塵を浴びて真っ黒々の黒坊となっていて、何ら娯楽もないため人口増殖をしている、鎖国主義の一部落で珍奇な風俗習慣、というように悪意に満ちた表現をしている。

与論島は奄美諸島最南端の小さな島だ。沖縄返還までは日本最南端の島だった。一八九八年八月、この島を大暴風が襲った。家屋はことごとく倒壊し、疫病が流行り、大飢饉に見まわ

れた。同年、三井物産口之津支店は与論島で船積人夫を募集した。そして三年後、四百人の与論島の島民が口之津に移住した。

しかし一九〇七年、三池港が開港し、口之津港での島民の仕事はなくなってしまった。

一九一〇年一月、口之津にいた与論島出身者の約半数が三池に再移住した。しかし彼らを待ち受けていたのは、会社側の、そして地元住民からの徹底的な差別であった。彼らの給料は一般労働者の半分以下だった。新藤東洋男、三井鉱山と与論島、人権・民族問題研究所、一九九五年。

彼らは地元の者からは聞き取れない島の言葉を話した。女たちは帯を前に結び、大きなカゴを頭に載せて、通りを歩いた。こうした風習の違いもまた差別のひとつの原因となった。ちがいはない。やがて彼らは長屋から外へ出歩かなくなり、しだいに閉鎖された彼ら自身の社会の中に閉じこもっていった。このような差別は自然な成り行きのように見えなくもない。しかしよく考えてみると、実は会社側によって意図的に作られた差別のようにも見える。というのもこの差別は会社側によってあまりにも都合がよすぎるからだ。定着性の強い労働者を育て、低賃金で働かせるもっとも手っ取り早い方法とは昔から行われてきたように被差別民を作り出すことなのだ。

三池の与論島出身者たちはしだいに、帯は後ろで結ぶようになり、島の言葉を捨て、カゴはもはや頭の上には載せないようになった。今日、地元の人々の彼らに対する差別は完全に消えている。

三池争議が始まると、組合の分裂はそのまま子供の世界に飛び火した。元炭鉱坑マンの話によると、子供が家に友達を連れてくると、玄関先でまず親が人差し指を立てる。そしてピ-

スをするように人差し指と中指を立てる。一か二か、つまり第一組合の子か第二組合の子か、ということだ。第一組合の組合員の家族は第二組合の子を中に入れない。第二組合の組合員の家族は、第一組合の子を中に入れない。大人の世界での出来事は子供の世界に鏡のように反映させたのだ。

一方筑豊では炭鉱労働者全体が蔑視されていた。筑豊の人々の炭鉱労働者に対する差別観を永末十四雄はこう記している。げざい人 掛坑夫のほか、労働力構成の重要な部分を担ったのは被差別部落民である。藩政中期から末期にかけて福岡藩、小倉藩とともに、普通の農民が放棄した散田、潰田を被差別部落民に割りつけ、年貢収奪を確保する方策としたため、遠賀川流域には広範囲に被差別部落 以下 部落 とする が配置された。このため部落のあるところには必ず炭坑があり、炭坑のあるところには必ず部落があるといつてよかった

25

筑豊における炭鉱労働者への差別は被差別部落問題と関わりがあるのかもしれない。被差別部落からの労働者は一般の労働者の住む炭住には住まなかつたという。差別がひどかつたためである。しかし部落の女たちは美しかったという。彼女らにまつわる元女坑夫の証言が残っている。昔の娘どんが働きよるのは美しかったばい。選炭に四、五人来とつたたい。若い娘が大隈の方から。みんな違うとたち 未解放部落 たい。四つたい。紅化粧して来よつた。前髪わけてな。大きくふくらかして。そうせな手拭がべちちゃんこになるからおかしい。後は針で立派にとめて。 中略 そんなふうで娘たちはそりゃきれいだつた

26

十三 鉱員総称

三池では炭鉱労働者のことを「炭鉱マン」と称するのが一般的だが、筑豊ではこの他に「下罪人」という呼び方がある。永末によると、下罪人の下罪は当て字であるという。藩政下、炭鉱労働者の大半は旅人の系譜に繋がる「げざい人」という人々であった。「げざい」は鉱山の金掘り坑夫、身分の低い職人、きこりのために山中に作った小屋、またそこに住むきこりを意味した。ほんらいの語義は仏教語の「内財」身体の内、転じて家宅内の財物に相對する「外財」人間の身体の外、財産で、平安時代から鎌倉時代に

27

かけて使われていた言葉だということ。このことから明治に入り、普通の労働者より下等の労働者を意味する言葉として「げざい人」が使われはじめ、本来の語義から逸脱し、「下罪人」と表記されるようになったという。また金子雨石によると明治初期、人々は炭鉱労働者を怖れて、「げざい人」と称し、その恐怖と畏怖の念がそう呼ばせるようになった、と述べられている。<sup>28</sup>

十四 閉山

三井三池炭鉱が閉山したのは一九九七年、不況の真っ只中であった。閉山後の炭鉱労働者の再就職は、高齢になればなるほど困難を極めた。かろうじて働き盛りの労働者は再就職先を確保できた。

会社の幹旋で滋賀県彦根市にある「昭和アルミ」という三井鉱山の子会社がある。そこに再

就職した五人の三井三池の元炭鉱マンは、再就職してから三年後、全員がリストラされている。また会社の幹旋で太平洋炭鉱に再就職した人もいた。太平洋炭鉱はすぐに閉山した。閉山時にはうまくいったと思われていた再就職先幹旋は三井炭山の 静かな閉山 のための一時しのぎに過ぎなかったとも言えそうだ。

三井側は何が何でも 静かな閉山 を望んだ。一九五〇年代から一九七〇年代にかけて、たびたびの争議、大事故で企業イメージを汚してきた。もうこれ以上汚したくなかったのだろう。静かな閉山 への経緯を新聞記事で辿ると、それがたいへん巧みに画策されたものだと思われる。

一九九四年十月四日付けの西日本新聞の朝刊は十月三日、三井石炭鉱業社長久保實氏が閉山を明言 したと報じている。いつごろかという、という質問に 閉山の時期は未定。少なくとも二〇〇二年に三池炭鉱が操業していることはあり得ない と答えている。それは一般の人々に 閉山は必ず来る。しかし当分は来ない と思わせる答弁だ。

新聞には閉山に備えて、市や三井炭山が閉山の際の退職者千八百人の再就職先を確保しようと努力している、という記事が載りはじめる。一九九五年二月十日付け朝日新聞。なぜか一九九六年四月から九月にかけて 閉山 の文字が新聞の紙面から消える。そして突然、九月三日、読売新聞が 来年 一九九七年 三月末に閉山 というスクープ記事を一面トップと社会面トップに出す。隅から隅まで読んでも、取材先も情報源も書いていないが、自信満々のスクープ記事である。おそらく三井上層部からの故意のリークだろう。ちゃんと社会面の一部に久保社長は否定 の記事もある。新聞を見て驚いた人々 特に社員 が会社側に問い合わせるが、会社側は そんな事実はない。新聞が言っているだけで、閉山の時期は決まっていない

とつっぱねる 一九九六年九月三十日付け朝日新聞夕刊。三井鉱山も三井石炭鉱業も、なんと翌年 一九九七年 二月、閉山の五十日前まで、シラを切りつづけ 一九九七年二月十七日付け読売新聞夕刊、労働組合及び労働者とのトラブルをかわしたのだ。三月末閉山を直接労働組合に告げず、メディアを利用して労働者に通達し、問われれば そんな事実はないと衝突を避けるこの策はコソクと言えばコソク、タクミと言えばタクミだが、結局効を奏した。

労働者らは閉山五十日前になると、閉山反対を叫ぶ気力も萎えていたからである。こうして見てくると一九九五年に開園し、一九九八年に開園したテーマパーク ネイブルランドも、実は 静かな閉山へのシナリオの一部だったのではないかと思えてくる。第三セクター、ネイブルランド社は一九八九年に閉山後の市の浮揚の起爆財 一九八九年九月十四日付け読売新聞として発足した。しかし実際は あらかじめ対策の 打ち上げ花火で、三井も市も閉山後の雇用確保にこんなに頑張っているのだと見せかけるための目くらましだったように思えてくる。

一九五五年に石炭鉱業合理化臨時措置法が施行されると、筑豊の炭鉱はナダレ閉山を起した。田川市石炭資料館 田川市石炭資料館 一九九八年。筑豊から炭鉱が次々と姿を消した。それまでも中小炭鉱の経営者はひとたび不況が訪れるとすぐに閉山した。そして労働者は路頭に迷う。失業保険を受けるが、一般に就業期間が短いため、その額は極めて少ない。内職をせずには食っていくこともできない。そんな彼らに目を付けたのが盗掘業者たちであった。失業保険を受けている抗夫をさらなる低賃金で働かせるのである 上野英信 追われゆく抗夫たち 岩波書店、一九六〇年。



十五 残存鉱山関連施設

三池では旧宮ノ原坑 福岡県大牟田市 と旧万田坑 熊本県荒尾市 が重要文化財指定を受け、それぞれの市によって保存されている。炭坑節のモデルとなった巨大な、赤い煙突は宮浦石炭記念公園に保存されている。

筑豊では田川市石炭資料館に三井田川炭鉱の堅坑ヤグラと、隣接する石炭記念公園にこれも炭坑節のモデルとなった三井田川炭鉱の巨大な、赤い煙突が保存されている。

注

- 1 永末十四雄 筑豊 石炭の地域史 日本放送出版社、一九七三年 二〇七頁
- 2 重松一義 三池集治監小史 二〇〇一年
- 3 市原博 炭鉱の労働社会史 日本の伝統的労働・社会秩序と管理 多賀出版、一九九七年 二七頁
- 4 上野英信 追われゆく坑夫たち 岩波書店、一九六〇年 十九頁
- 5 同書、十三頁
- 6 財団法人西日本文化協会 福岡県史 通史近代産業経済 福岡県、二〇〇〇年 四一八頁
- 7 上野英信、前掲書、六二頁 六四頁
- 8 市原博、前掲書、二三九頁

- 9 永末十四雄、前掲書、一〇八頁
- ⑩ 同書、一〇六頁
- ⑪ 金子雨石 筑豊炭坑ことば 株式会社名著出版、一九七四年 一六九頁
- ⑫ 同書、一七〇頁
- ⑬ 上野英信、前掲書、二二頁 二三頁
- ⑭ 上野英信 日本陥没期 未来社、一九六一年 一〇四頁
- ⑮ 池上彰 そうだったのか！ 日本現代史 ホーム社、二〇〇〇年 九〇頁
- ⑯ 宮村眞澄 三池争議の軌跡 葦書房、一九八五年 八五頁
- ⑰ 同書、九〇頁
- ⑱ 同書、二一四頁
- ⑲ 同書、二二二頁
- ⑳ 永末十四雄、前掲書、一五八頁
- ㉑ 上野英信、前掲書、九〇頁
- 21 宮村眞澄、前掲書、二〇三頁
- 22 上野英信、前掲書、十七頁
- 23 新藤東洋男 三井鉱山と与論島 人権・民族問題研究会、一九六五年 五七頁
- 24 永末十四雄、前掲書、二〇七頁
- 25 森崎和江 まっくら 女坑夫からの聞き 現代思潮社、一九七〇年 一八五頁
- 26 永末十四雄、前掲書、二〇五頁
- 27 金子雨石、前掲書、一七六頁
- 28

### 三井三池炭鉱の元炭鉱マンたち

S・H氏の場合

二〇〇二年八月初旬、久々に私は旧友に電話をかけた。彼女は小学校、中学校の同級生で、かつては三井石炭鉱業小川社宅に住んでいた。彼女の父親は元炭鉱マンだ。閉山後、父親の再就職が昭和アルミに決まり、一家は滋賀県彦根市に引越した。が、数年後に彼はそこを辞めた。現在、一家は福岡市内に住んでいる。

ねえ、M 友人の名前のお父さんて、元炭鉱マンでしょ。今、卒論で炭鉱についてやっているんだけど、よかったら、お父さんの話を聞いたらなと思って……

私はいい返事をあまり期待していなかった。彼女の父親は閉山後すぐに再就職先が決まったものの、すぐにそこを辞めている。あまり話しながらないかもしれない、と思った。彼女は即答した。

よかばい。えーっと、お父さんの今月の休みの日は×日、×日、×日、×日。いつがよか？

彼女は父親の公休日を語っていた。

えっ？ ……でも、お父さんの都合も聞かないと……

なーん、よかくさ。あん人、ひま人やんけん

私は彼女の言いぐさに笑ってしまった。彼女の家族は父と母と二人の娘。彼女の父親は三人の女の尻にどっしりと敷かれていているらしい。

じゃあ………

私たちは勝手に日程を決め、電話を切った。最後に彼女は 久々に博多で遊ぼうぜい と言った。

私は八月十六日、JR大牟田駅から鹿児島本線、快速門司港行き電車に乗った。炎暑だった。私は緊張していた。ずっと炭住のすぐそばで暮らしていたくせに、私は現実の炭鉱労働者についてほとんど何も知らない。まさに 燈台もと暗し だ。十六歳のとき、ひよんなことから郷土の炭鉱の歴史に興味を持ち、それから炭鉱マンに奇妙な憧れを抱いた。しかしこの友人の父親からはじまって、数人の元炭鉱マンに取材をすることになったが、彼らの世界を覗くことに妙な、後ろめたさのようなものを感じていた。この妙な気持ちは常時、私を緊張させた。とは言え、彼らの直接の言葉を聞くことなしに、私のテーマを解決することはできない。なぜなら三井三池の、戦後の炭鉱労働者の生活や風俗を記録した本がほとんど存在しないからだ。炭鉱労働者の生活を垣間見るため、筑豊の炭鉱労働者のそれらを記した本をいくつか読んできた。だが、三池と筑豊のそれらはまったく違うということを、私は直感的に気付いていた。

博多で柴栗線に乗り換え、袖須駅で下車する。改札口を出ると、懐かしい顔があった。

よっ！ 久しぶり

彼女は言った。私も 久しぶり とだけ言った。照れくさかった。九歳の頃、私は彼女の家に入り浸りだった。仲良し四人組で、駄菓子を持ち寄って、いつも彼女の家でドンチャン騒ぎをしていた。父親が 三番方 の日だというので彼女の母親に叱られたこともある。それが今や、これから彼女の家に行って、ドンチャン騒ぎ ではなく、炭鉱の話聞かせてもらうことになろうとは。

袖須駅周辺は閑静な住宅街で、彼女の家は駅から十分ほど歩いたところの団地にあった。エレベーターで上がり、四階で降りる。どこからともなくロック音楽と赤ん坊の泣き声が聞こえる。友人は玄関の扉を開けると、来らしたよーと、大声で言った。私がつづいておじやましますと奥に向かって言うと、中からどーぞーと彼女のお母さんの声が聞こえた。友人に促され、中へ入る。襖を開けると、十数年前とちつとも変わらぬ友人の両親がいた。

あーら、ナータくん、久しぶりねー

彼女の母親が私を見て、言った。ナータとは、私の小学生時代の呼び名だ。そのころ呼び名の語尾にたんを付けるのが流行っていた。私の名はマサコだから、本来ならばマ一たんとなる。しかし同じクラスにマサヨという名の子がいて、彼女がマーたんと呼ばれていた。結局、私の姓ナカガワのナをとって、ナーたんとなった。それが訛って、ナータとなり、当時彼女の母親はそれにくんをつけて、ナータくんと呼んでいた。

お久しぶりです。すいません、お忙しいときに

私はペコリと頭を下げた。

なーんの、いっちょん忙しゅうなかって

母親は肝っ玉母さんのような雰囲気を持ち主で、その日はフアンデーションを塗っていない素顔に赤い口紅をさしていた。父親はにこにこしながら卓袱台の前に坐っていた。色白のハンサムで、黒目がちな目が優しい。四十代のはずだが、ずっと若く見える。

今日はお世話になります

私は坐った後、彼に丁寧に頭を下げた。

いえいえ、こちらこそよろしく願います

彼は笑いながら正坐した。ポテトチップスとお茶が出た。私の隣に友人が坐り、彼の隣に友人の母が坐った。私はあらかじめ考えておいた十ほどの質問を彼に尋ねた。彼は終始正坐したまま、ときどき体を揺すりながら、とつとつと話しはじめた。

はじめて入坑されたのはいつですか

えーっと、昭和五十二年の……十二月です

坑内ではどのような仕事をされていたのですか

私は機械の方をやっていました。電車の修繕とか、ワイヤーを引っ張ったりとか

どこの鉱に勤めていらっしゃったのですか

炭鉱の場合、就労することを一般的に下がる　と言う。私はあえてその言葉を使わなかった。

四山鉱で八年から九年、その後、三川鉱の選炭場で十年ほど、です

彼は質問されたことだけを答え、ときどき私のメモ帳を覗きこんだ。

炭鉱で働いていて、つらかったことはなんですか

つらかったことは……別に……ないですけど

彼は頭を掻きながら、笑いながら言った。

ない、ですか

あ、はい

あの、強いて言うなら、でいいんですけど、何か……

つらかったことはないという返答は予想だにしていなかった。

強いて言うなら……うーん、ケガ、かな

ケガですね。具体的にはどのようなケガですか

まあ、打撲はしょっちゅうでしたね。天井から鉄棒がしょっちゅう落ちてくるんですよ。で

ね、ヘルメットがへこむんですよ

大丈夫なんですか？ 痛かったですでしょう

いや、そんなでも。あっ、イテッて感じ

彼は頭を押さえ、おどけるように言った。

じゃ、逆に楽しかったことはなんですか

楽しかったこと……うーん、キヤップライトをつけて弁当食べることに、それから昼寝する

こと、かな

昼寝、ですか、坑内で？

そうですね。誰も見ていないところで、パンツいっちょになって、こっそり。弁当食べたなら、眠くなるでしょ。飲み会も多くて、楽しかったなあ

閉山はどのようなかたちでお知りになりましたか

閉山は……十年くらい前から噂はあってましたから。でも本当につぶれるとは思っていませんでした。徐々に雰囲気が強まっていったって感じで

そうですね。閉山後は 昭和アルミ に再就職されていますよね

はい

それは三井鉱山の幹旋ですか

はい

なぜ 昭和アルミ に決めたんですか。滋賀なんて、遠いですよ

まあ……条件がよかったんで。大牟田のもありましたが、昭和アルミの方が条件がよかったもので

そこではどのようなお仕事をされていたんですか

流れ作業ですよ。ブラジル人とか派遣会社の人が多かったですね。立ち仕事で、きつかった……

それからどういった経緯で、辞めることになったんですか

入社してから三年後、昭和アルミも合理化をやりました。三池から私を含めた五人が昭和アルミに再就職しましたが、全員、希望退職というかたちで退職しました。昭和アルミ

での仕事は本当につらかった。五人の仲間がいたからなんとか耐えられたようなものです。その中の一人は血尿出しながら働いていましたよ。私たちは団結しました。みんなが辛抱して、みんなががんばりました。どん底の状態でした

……そうでしたか……

昭和アルミを辞めて、こつちに帰って来てなんとかタクシー会社の仕事を見つけました。仕事がないということが、男にとっては一番つらいです

そうですね。他に三池から再就職をした方の近況はご存知ないですか

知ってますよ。太平洋炭鉱に再就職した人とか

太平洋炭鉱！三池の閉山の後すぐに閉山しましたよね

はい

会社の幹旋ですか



はい

そんな、閉山することは分かっていたはずなのに

あとは再就職したものの、馴染めなくて、ノイローゼになった人もいます。炭鉱で言うところのイメージがありますが、本当はそんなじゃなくて……何というか……人情が厚いのです。いかに炭鉱がよかったことか……私は炭鉱が天職やったっていうか……これ以上の仕事はないと思います

ほんなこてね

それまで夫の話にじっと耳を傾けていた友人の母親が突然言った。

ほんなこてね、炭鉱の人は人情の厚かもんね。社宅もね、昔は鍵ばかりに出よつたもんね。社宅に住んどる人で、盗みばする人とかおらっしゃれんけん

まあ、盗るもんもなかばってんね

間髪入れずに彼が言った。二人は互いの顔を見合わせ、笑った。

#### S 氏の場合

取材が終わり、雑談をしているとき、友人の母がこう言った。

うちの人の話でわかった？　うちのじいちゃんならもっと詳しくかばい

じいちゃん、というのは……

うちのじいちゃんも炭鉱マンやったけん。どげんね？

跳び上がるほどうれしかった。いくら大牟田が三井の企業城下町と言えども、閉山して五年、

炭住はすべて解体され、跡形もない。同級生も散り散りばらばら。伝手がなくて困っていた。ぜひお願いします

私は取材の札を厚く言い、友人の祖父であり彼女の母親の父親に会う日取りを決め、その場を辞したのだった。

三日後、JR大牟田駅のプラットホームで待ち合わせた。友人と母親は下り電車の発着するホームのベンチに腰かけていた。

どうも、この度はまたお世話になります

よかよか。私もこげんでもせんと実家に行かんけん。それより大牟田、なーんもなかごんなったねえ

母親は振り返って、ベンチの向こう側に見える町を眺めた。

熊本行きの普通電車に乗り、五つ目の大野下駅というところで下車した。近くに古戦場、田原坂が見えていた。私たちはタクシーに乗った。田舎やんけん、パスも一日何回かしか来んとと友人は言った。タクシーでくねくねと曲がった細い道を行き、十分ほどで着いた。一戸建の立派な家だ。タクシーの止まった首を聞きつけて、家の中から友人の祖母らしき老女が出てきた。

あー、よう来たねえ

老女は娘と孫の来訪をひどく喜んだ。本当に久々の再会らしかった。

言うどつたるが。私の友達、じいちゃんの話ば聞きたか、て

うん、うん。上がらんね、上がらんね

老女は私たちを中へ促した。居間に通され、私は驚いた。大きなテーブルの上に寿司や刺身

が並んでいたのだ。そして縁側には、気難しそうな老人が立て膝をついて煙草を吹かしていた。

飲みもんはなんのよか？ コーラ？ オレンジジュース？ お茶ばやろか？

老女は台所と居間を行き来しながら言った。私はすっかり恐縮してしまった。

あ、おかまいなく

私がそう言うと老女はほんならコーラばやろうかね　と言い、台所に消えて行った。友人は笑いながら、祖母を手伝った。

あの、今日はお世話になります。よろしくお願いします

私は縁側に坐っている老人に挨拶した。

おっどんな、なーんも知らんばい

老人はそう言うとそっぽを向いてしまった。

いえ、炭鉱マン時代の思い出なんかを話していただけたら、それでいいんです

私は平静を装っていたが、体はこわばっていた。友人が私の前にコーラの入ったグラスを置いた。私はさつそくノートとペンをバッグの中から取り出した。あらかじめ考えておいた質問を、おそるおそる声に出した。

炭鉱マン時代、つらかったことはなんですか

……そりゃ、炭鉱は突発事故の多かけんね

老人は立膝を突いたまま、うつむきかげんに言った。

突発事故というのは例えば……どのような

落盤事故たい

老人はぶつきらぼうに言った。

天井から岩盤が落ちてくるんですよ？

おっども落盤事故におうとるけんね

老人はそう言うと、すつくと顔を上げ、私を見た。

あれは昭和四十二年の、たしか十一月やったたい。二番方やった。二百トンの岩盤の落ちてきたったい

えっ？ 二百トンの岩盤の下敷きに、なったん、ですか

私は驚いてしまって、周りを見まわした。友人も彼女の母も祖母も黙って、老人の話に耳を傾けていた。

それがない、落ちてきた岩盤のすき間に挟まってくさい、助かったたい。ぼってん、おかげで障害の十一級。それから三年間は入退院のくり返しやったたい。その事故の後は選炭に上がったたい

私は圧倒されて はあ としか答えられなかった。さらに老人はつづけた。

やっぱ炭鉱ちゅうとは、最初は誰でん怖かち思う。おっども怖かった。真つ暗やんけんね。地上では想像のできんごたるみよ一な圧迫感のあるたい

老人は煙草を揉み消し、料理の並んでいるテーブルの前に坐った。私は以前からずっと気に掛かっていた、朝日新聞大牟田通信局の記者であった奈賀悟氏の 閉山 岩波書店 の冒頭の 坑内は森の香りがした という一節について訊いてみた。

坑内は森の香りがする、と本で読んだことがあるのですが、それは本当ですか  
な一んば言いよつとね！

老人は突然大きな声を発した。

なーんば言いよつとね。なんの森の香りのしようか。あんた、ゴキブリはおるわ、ネズミはおるわ、んなこて。……ばってんね、坑内のゴキブリは白かつよ。あんた、知ったかね

ゴキブリが白いんですか

横で成り行きを見守っていた友人と母親たちがクスクスと笑った。そのときはじめて私の緊張は和らいだ。

そうたい。ゴキブリも太陽の光ば浴びんけん、白かつちやろね。そしてよろよろしよらすたい。天井ではネズミのチュウチュウたい

友人らがふたたび笑った。つられて老人もクスリと笑った。

食べんね、食べんね

雰囲気が和んだのを悟って老女が私に言った。

今、取材ばしよらすたい

友人が老女を制した。老女は ああ、そうね と言い、小皿にいくつかの寿司を盛って、私の前に置いてくれた。

ゴキブリが白いとおもしろいですね。それでは楽しかった思い出なんかはありますか

楽しかったこつ、そりやみんなとワイワイ昇降して、ワイワイと仕事して、ワイワイと帰ったこつたい。炭鉱には地上で言う ねたみ とかはなか。命ば張って仕事ばしよるけん。みんなで助けて、特に坑内で何かあったら、自分のことはほったらかしてでも助け合いたい。人情のあるたい。だけん、おつどんな普通の人間はいっちょん好かん。話の通じらんもん、んなこ

て  
老人はふたたび煙草に火をつけた。

そうですか。私は筑豊の炭鉱についても調べているんですが

あー、筑豊と三池は全然違うばい

私が言い終わらぬうちに、老人は煙草を握っていない方の手を振り、言った。

筑豊の炭鉱マンと三池の炭鉱マンは全然違う。同じ炭鉱マンでも話の合わん。三池の人間はおっとりしとる。ぼつてん筑豊の人間は生活のためなら何でんする。三池と筑豊の人間は全然違うばい。人間の気質の違う。実は、おつどんな筑豊の生まれたい。筑豊のヤマでん下がったこつのある。筑豊に今でん行ったら、ここ、ここ、ち言うて、坑口の場所ば言いきるばい。老人はいつからか活き活きと喋りはじめていた。

どこのヤマに下がられていたのですか

私は、下がる、という言葉をなんのためらいもなく、自然に発することができた。

三菱たい

三菱ですか。大手炭鉱ですね。筑豊の中小炭鉱はすごい、と本で読みましたが

筑豊の中小は……口で言い表せるもんじゃなか。筑豊もね、戦前まではよかったつよ。変わってしもたつは合理化以降たい。盗み掘りとかばして、あちこち坑口ば開くるけん、だぼついてくるたい。共倒れたい

老人が三井三池炭鉱に入坑する前、三菱炭鉱に下がっていたということから彼がエリート炭鉱マンであることがわかる。炭鉱労働者がヤマを変わるとき、そこには、大手から大手へ、大手から中小へ、そして、中小から中小へ、という三つの構図しかあり得ない。中小から大手へ、という構図はあり得ない。中小炭鉱ではもっぱら手掘りで、原始的な手法で採炭していた。あらゆる作業が機械化されている大手炭鉱で、彼らは使いものにならないのだ。三菱

から三井へ、大手から大手へヤマを変えたということとは、もしかしたら元のヤマをリストラされたのではなく、自らの都合でヤマを変えたのかもしれない。私はペンを置き、ノートを閉じた。

いろんな話を聞かせていただき、本当にありがとうございます

私は老人に深々と頭を下げた。

もう、よかと？

老人は言った。

はい、充分です

私は言った。三菱炭鉱であれ筑豊炭鉱に下がったことのある人物に会ったことだけでも、私は十分に満足していた。私ははじめて、目の前に置かれていたコーラを口にした。もう炭酸が抜けていた。それから友人と彼女の母親が話題の中心になった。私の知らない名前が会話のなかに飛び交った。友人の祖母が私のために小皿に持ってくれた寿司だけをたいらげ、その場を辞した。帰り際、老人は家の外まで見送りに来てくれた。私が何度も礼を言うと、こちらこそ。遠いところをありがとうございますと、老人は頭を下げた。

大野下駅で、電車に乗るまで少し時間があった。はあーと溜め息が出た。やっと緊張が解けた。どっと疲れが出た。友人の父親もそして今日の老人も、うれしそうに楽しそうに炭鉱マン時代の話をした。死と隣り合わせの極めて危険な仕事であったにも拘わらず、それでも思い出を肯定する何か三井三池炭鉱にはあったらしい。

私は母の親戚の伝手を頼って、もう一人の三井三池炭鉱の元炭鉱マンに話を聞くことができた。坂井伴成氏は昭和五十八年、四山鉱に入坑した。そして四山鉱閉鎖と同時に有明鉱に移った。閉山後はゼンリンに再就職が決まり、現在は熊本支店に勤めている。そして閉山後、取り壊された小浜南社宅跡地に建てられた団地に家族と共に住んでいる。

坂井氏が仕事を終え、帰宅する午後七時に私は彼の自宅を訪ねた。私が訪問したとき、彼はまだ帰宅していなかった。代わりに彼の妻と娘が出迎えてくれた。妻の喜美枝さんは小太りで、髪を茶色染め、赤いハーフパンツを身に着けていた。中学三年生の娘は色白で、スラリと背の高い美少女だ。

もうすぐ帰って来らすけんね。先に飲みよかんね

喜美枝さんはそう言って、立ち上がるとした。

いえ、いえ

私は彼女を制し、ご主人が帰られてからと言った。彼女はそうねと言い、ニッコリと笑った。しばらく彼女の孫の写真などを見ながら雑談をして過ごした。そして七時半になった頃、坂井氏は帰ってきた。スーツ姿だった。元炭鉱マンらしくない細身の華奢な体格で、スラリとした長身だ。娘は父親似らしかった。

こんばんわ。お世話になります

私がそう言うと、ちよつと、先に着替えるけんねと彼は言い、奥に引っ込んだ。夫が帰り、喜美枝さんはダイニング・キッチンをちよこちよこと立ち回り、あつという間にテーブルの上に刺身の盛り合わせと冷奴とビールを並べた。



坂井氏はジャージ姿で現れた。そして坐りながら 何ば調べよっと と、私に言った。

あ、三池炭鉱と筑豊炭鉱の炭鉱文化の違いについて調べています

ほう。炭鉱文化ねえ。何のわかったね

あ、はい。坂井さんご自身は三池についてどうお話になるかわかりませんが、三池の元炭鉱マンはうれしそうに炭鉱マン時代のお話をされます。それとは対照的に筑豊の場合、本で読む限りではそうではありません。彼らはつらい、つらい過去として話します。その違いは何かな、と思ひまして

なるほどねえ

いくつか質問してもよろしいですか

ええ、どうぞどうぞ

彼はそう言ったが、あまり乗り気ではなさそうだった。喜美枝さんがビールを勧めてくれた。

私は脳をしっかりと醒ましておかなくてはならないので、舐める程度にビールで口を潤した。喜

美枝さんは坂井氏の隣に坐り、娘は私たちの会話をBGMにダイニングキッチンで宿題をしていた。

炭鉱マン時代、楽しかった思い出は何ですか

んー、ヤローばかりやったけん楽しかったね。給料もそれなりにもらいよったけん。それなりちゆうても、炭鉱マンやんけん、普通の会社よりよかけんね。福利厚生もしつかりしとつたし

逆につらかったことは何ですか

つらかったことねえ、やっぱ事故、ね

炭鉱の事故は一度起こったら大きいですものね

うん。俺の現場で死亡者は出しとらんばってん、やっぱ同じ会社で死亡者は出すちゆうこが一番つらかね。俺もね、一回、担架で運ばれたことがあるとよ。ねえ、母さん

彼は妻に問いかけた。

うーん、あったねえ

喜美枝さんは熱いお茶の入った湯呑を握りしめ、言った。

熱瘧症になってね

坂井氏は言った。

熱、瘧症？

うん。坑内は熱かけん、汗の全身から吹き出て、全身がツルとたい。それで担架で上がったことのある。ありがたかったとは、ちようど二番方で下がってきた連中が担架ば運んでくれたことたいね。もぐったら、何が起るか分からん。有明みたいになったら……ち

家族はね、やっぱ心配よ 喜美枝さんが言った。そしてつづけた。有明鉱の事故のときくさい、その頃うちの弟が有明鉱に下がりはったたい。あれはいつやったかね、八十四年の一月十八日やったろう。私ね、社宅におっから、社宅の奥さんたちと喋ろったたい。そんなとき 有明鉱でボヤのあったげな ち聞いたたい。で、その日、私、実家に財布ば忘れてきとったけん、実家に行ったたい

あんときは雪のしやんしやん降りよったなあ

坂井氏が腕を組んで、宙を仰ぎながら言った。そしてつづけた。

親父さんにくさ、有明でボヤのあったげなばい ち言うて帰ったっちゃんね。で、家に帰

って来てから、テレビば点けたたい

彼の声がだんだん大きくなってきた。

そしたらくさ、連報のパンツち出た。有明敏で坑内火災が発生しましたち。あいたっ！

ち思うた。で、カズヒロ君 喜美枝さんの弟、どけんなつとるかっち言うて、電話したも  
んね

そうやった。そして電話ばしたらくさい、カズヒロはね、風邪ばひいて、仕事ば休んどった  
たい。二日間、熱出して休んどったと。ばってん今日は行こうち思うとったげな。奥さんは  
弁当も作って用意しとらしたげな。朝、カズヒロの家ば出ようかしたらくさ、めまいのしたげ  
な。めまいのするなら、仕事はできんもん。だけん休んだち。弟は有明敏で 仕繰り ばしよ  
ったたい。 仕繰り は全員死亡

私は言葉を失った。

運命、ですかね

やっと出た言葉がそれだった。

運命よねえ。まんまんしゃん 神様 のおかげよ

喜美枝さんはしんみりと呟いた。

坑内で金縛りにあうとよ 坂井氏が言った。坑内には霊のおるとよ

そう言うとなち上がり、ダイニングキッチンから ダイゴロウ という銘柄の焼酎の五リッ  
トルボトルを持ってきた。そしてグラスに焼酎を注ぎ、喜美枝さんが飲んでいたお茶の急須に  
ポットのお湯を入れ、それで焼酎のお茶割を作った。彼は妻の話を聞きながらとつくにビール  
を飲み干してしまっていた。彼はたった今作ったばかりの焼酎お茶割を熱そうにすすった。そ

してふたたび喋りはじめた。

三川 鉱では昭和三十八年に炭塵爆発の起こったろうが。三川の次は四山 ち言われとったとよ。そげん言われとったせいとか、四山 は保安意識の強かったもんね。で、有明で起こったろうが……。坑内火災で思い出すとは、四山 でも一回あったっちゃね。俺たちが掘進坑道ば行きよるとき、炭の向こう側が燃えよったと

炭の向こう側？

うん。自然発火たいね。通気とボウリング注水で消したもんね。炭鉱は気付かん火災の多かもんね

気付かない火災、ですか。では、そのときも坂井さんはお気づきにならなかったんですか

うん。俺にはわからんやった

じゃ、どうやって火災に気付くんですか

うーん、タール臭がするとか、炭壁が汗かいとるか。……。炭鉱マンにとって、指一本失うことは、小さなことたいね。払い採炭で指ば四本なくした人のおつたたい。俺がそんな人と店で飲みよるときにチンピラの入ってきたたい。そのチンピラのグスグス言うけん、その人のあー、せからしか！ ちゅうて、パンツちテーブルば叩かしたたい。そしたらくさ、チンピラその指ば見て、指の四本なろうが。チンピラのストコドッコイで逃げて行ったたい。それからこんなこともあった。切り羽に行つて帰ってきたら、坑道の形の違うもん。落盤しとったたい。炭鉱の事故はもの数秒で起こる。みんなケガしたくないとよ。保安に関してはみんないっしょ。それは三池も筑豊もいっしょ。その保安意識の裏には家族のためちゅうとがいつもある。これは炭鉱に働くもんはみんな変わらん。これだけは共通しとるとよ

彼はそう言う。ちよつとトイレと言ひ、と大儀そうに立ち上がった。酔いがまわつてきているようだった。

社宅での生活はどうでしたか。今は団地に住んでおられるわけですが

私は喜美枝さんに問ひかけた。

よかつた。ほんなことよかつた。社宅の方が近所づきあいのあるうが。社宅は他の人たちの生活の見ゆるとたい。朝起きてから七輪でご飯ば炊くやろ。ほんの最近、昭和五十年代までは石炭は会社から配給されよつたけんね。でね、誰が起きとつて、誰が起きとらんかがわかるやんね。一番方の人の起きとらんやつたら、一番方よち言うて起こしに行つたことである。寝ぼうばした人の弁当ば作つてやつたことである。醤油とか砂糖とか、足りんときは借りに行きよつたたい。塀の穴で貸し借りばしよつたもんね。プロック塀に穴のあるが。そこから手ば出してちよつと貸してち言うてね。そしてね、子育てによかつた一。専業主婦ばつかりやるが。みんなでみんなの子ば育てた。ほんなこて炭鉱の人は人間のよか。情の厚かまん

情の厚いっちゅうかね

坂井氏が戻つてきた。そして坐りながら言つた。

情の厚いっちゅうか、炭鉱マンはシャイなんですよ。それで世間ば知らん。炭鉱マンは世間知らずですよ。坑内下がれば我が天下やんけん。炭鉱の人間は人のよか。シャバの人間とはやつぱ違うち思う。自分たちのことより、他人にようしてやる。それが保安にもつながらと

私はね

喜美枝さんは言つた。

私はね、正直言うて、社宅とか炭鉱とかに未練のあるとよ

俺もときどき夢を見る

坂井氏が言った。

炭鉱の夢ばね？

喜美枝さんは意外そうに坂井氏の顔を覗きこんだ。

シャバのごたるして、坑内におっとやんね。俺も炭鉱に未練のあるとかもしれん

坂井氏はうつむき、言った。

炭鉱が閉まえたことで、世の中が変わったごたる気のするとよ

喜美枝さんは私の方を見直り、言った。

人生の変わったよ 坂井氏が言った。そしてつぶけた。炭鉱マンはシャイで世間知らずや

ろうが。高校も行かず、親父が炭鉱マンやんけん、そのまま炭鉱に入るちゆう感じやんけんね。

炭鉱の人間はシャバのわからん。社宅の人間は連帯意識の強か。何でかち言うと、これは俺の

持論ばってん、結局シャバの人間は炭鉱の人間ば、いっちょ下に見よったけんよ

あまりに鋭い、リアルな言葉に私は言葉を失った。

三池争議で組合が分裂しましたよね。その後、第一組合 三池労組 の組合員に対する差別

があったとよく聞きますが、それは本当ですか

旧労 三池労組 だからとか新労 新三池労組 だからちいうとは、現場ではなかよ。現場

では俺たちは同じ穴のむじなよ。俺に最初に仕事ば教えてくれたとは旧労の人やった。旧労の

人といっしょに飲み会もしよった。現場でいがみ合うようなことがあったんじゃ、たまったも

んじやない。それが保安意識にもつながるけんね。結局、俺たちは同じ穴のむじなよ

坂井氏は笑った。これまでに彼は何杯焼酎のおかわりを作っただろうか。相当酔いはまわっている様子だった。彼はしだいに熱く語りだし、饒舌になっていった。閉山について、彼は語りはじめた。

炭鉱がなくなるっちゅう話は前から聞いた。Xデイがいつなのかが分からんやった。俺はその頃地区長ばしよったばってん、誰も知らんやった。確か十二月三十日やったろう。テレビば見よったら、ボンツち出た。すぐさま組合の執行部に どういうこつか！ ち電話したた。二月二十六日には労働省に陳情にも行ったばい。四山 鉦 の閉鎖のときも、そげんやっ。閉鎖はテレビで知った。NHKの六時半のニュースば見よってくさ、四山 鉦 閉鎖 ち出た。そんなときはなんもかんもなかった。四山 鉦 閉鎖のときと三川 鉦 閉鎖のときと

、会社は希望退職ば募っとつとよ。希望退職の方が金のよかろうが。ばってん俺は辞めんやっ。閉山のときは炭鉱が好きなものだけが残つとつたとよ。四山と三川で希望退職せんやっ。連中が残つとつとつちやんけん。俺は辞めんよかつた、ち思う。閉山の日、俺は三番方やっ。最後の最後に下がったつちやん。テレビに映ったとは、あれは二番方。会社は絶対、三番方ばマスコミに見せたがらんやっ。それもそのはずたい。見せられんばい、悲しすぎて。坑内でお神酒あげてね、みんな酒ば飲んだたい。仕事はなかつちやんけん。もう石炭は掘らんでよかつちやんけん。みんな自分が使いよつた機械にお神酒ばあげて、みんないろしよつた。俺はベンチサクば坑内に残してきた。炭鉱が俺たちは一番よかつた。炭鉱におつた人たちは心が成長しとらん。他の仕事ば知らんもん。よその世界ば知らん。みーんな子供たい。だけん閉山して、再就職でみんなえらい苦労したろう。閉山して家に帰ってきたとき、娘がお疲れさまでした ち言うてくれたつたい。ほんなこて、うれしかった。十三年一ヵ月、五

体満足でよくやってこれた、ち思う

アンタは炭鉱の仕事が合うとったよ

喜美枝さんはしんみりと言った。

労働して、酒飲んで、ワーワー言うて、それがアンタらしかったとよ。……好きな仕事ばできたけん、よかったね

好きやったちゆうか……、好きやったっちゃるうね……

坂井氏はふたたび腕を組み、宙を仰いだ。

### 海老津炭鉱跡へ

二ヶ月の夏休みを終え、大学の講義が再開し、卒論の準備は大詰めを迎えている。三井三池炭鉱の元炭鉱マンたちの証言を活字にするうちにある衝動がふつふつと湧いてくる。彼らが炭鉱に対する愛着を語れば語るほど、私の心は皮肉にも筑豊の幾重にも疎外された者たちへと吸い寄せられる。やはり海老津炭鉱跡へ行ってみようと決めたのは十一月初旬のことだった。インターネットで福岡に行く交通機関、いちばん安価なのを探した。往復一万七千円の阪急バスに決めた。大阪梅田から博多まで約十時間の道のりだ。

十一月十八日、京都の阪急烏丸駅から電車に乗り、梅田に向かった。午後八時二十分発、梅田行き快速特急に乗り、九時に到着。一時間ほど時間をつぶし、十時にバスに乗り込んだ。バスは満員だった。夜行バスということもあり、カーテンはすべて閉ざされ、車窓の景色を見ることもできず、夜行バスに乗ったのはそのときがはじめてということもあって眠ることもでき



ず、十時間バスに揺られた。

翌朝、午前六時四十分にJR博多駅に到着。十一月とは思えないとても冷える朝で、睡眠不足の私はぶるぶると震えた。早朝で、まだ飲食店も開いていない。朝食は後回しにして、私はJR快速門司港行きに乗った。三十分後、赤間駅に着いた。そこで門司港行きの普通電車に乗り換える。たまたま乗り合わせた女子高生たちが気だるそうに喋っていた。

昨日、学校帰りに赤間で降りて遊んだったい。でね……

博多を出てからこれまで、車窓からはずっと田舎の田園風景がつづいていた。が、ここ間は女子高生が遊ぶくらいだから、比較的ひらけているところなのだろう。

十分後、JR海老津駅に着いた。腕時計は八時半を差していた。駅を出ると、目の前に西鉄バスの停留所がある。その向こうに絆と題された母子像がある。お母さんが子供を高い高にしている姿。右手には大きなマンションがそびえ立ち、その横にはデパート、寿屋が見える。とりあえず駅周辺を散歩してみようと思った。駅から伸びている県道二九一号線を下りて行くと、駅は高台にある、コンビニがあった。そこで私はジュースとパンを買った。近くにあったベンチに坐って、寒さに震えながら食べた。食べながら辺りを見まわした。単調な道が果てしなくつづいている。これ以上進んでもしょうがないな、と思った。私はパンをジュースで喉に流し込むと、駅に引き返した。

福岡県遠賀郡岡垣町に海老津という地名はある。約四十年前に作られた、炭鉱の所在地を示した非常におおざっぱな地図。炭鉱と遠賀川しか書き込まれていないがある。それと現代の地図を照らし合わせてみる。昔の地図でわかるのは海老津炭鉱は遠賀川河口の左下で、河川からは少し離れた位置にあるということだけ。現代の地図でいうと、海老津ニュータウンの辺り

か。私は海老津ニュータウンを指してバスに乗った。

バスには老人しか乗っていなかった。駅入口、総合グラウンド前、雨堤……、バスはいくつものバス停を路傍の石のように見捨てて通り過ぎた。次の停留所、役場前の文字が前方の電光掲示板に映った。私はふと何の手がかりもなくニュータウンに行くのはあまりにも無鉄砲ではないか、と思った。炭鉱の面影など微塵も残っていないことなど充分わかっている。しかしもしかしたら小さな建立碑でもあるかもしれない。もし何かあるのなら、その場所を明らかにして行くべきではないか。私はとっさに役場前で下車した。

岡垣町役場は三階建の、古めかしさを感じさせない、近代的なたたずまいだった。正面玄関から入ると、受付係りの女性が坐って、私が入って来るのを見るとおはようございますと言った。黒髪を後ろでまとめ、紫色のスーツに身を包み、そばかすのある三十代半ばくらいの綺麗な女性だった。私は事情を話した。

エビツ炭鉱、ですか？ ちょっと聞いたことないですけど……

彼女は首をかしげながら言った。

役場の中で、どなたかご存知の方いらっしゃいませんか。私はくい下がった。

彼女はふたたび首をかしげながら席を立ち、ロビーで何やら話し込んでいた、紺のスーツの男性職員に声をかけた。

エビツ炭鉱？ 炭鉱？ さあ

男性職員の声が聞こえてきた。

あちらの方が……

彼女は遠慮がちに私を紹介した。私は頭を下げた。

建設課にでも行ってみたら

男性職員はそう言うと、それまで話していた人物とふたたび話しはじめた。

じゃあ、建設課にご案内します

彼女は私を促した。正面玄関を出て、別館へ入ると、そこは建設課のオフィスだった。男性職員ばかりだった。みな一様にネクタイを締め、スラックスを履いているのだが、なぜか象牙色の作業着のような上着を羽織っていた。受付の女性はカウンターの中に入り、デスクのパソコンに向かっていた体格のいい額の広い男性職員に小声で話しかけた。

海老津炭鉱？ あー、公害問題ですか

男性職員の声が聞こえた。

あ、いえ、違うんです

私はカウンターに駆け寄った。

海老津炭鉱跡の位置を知りたいだけなんです

炭鉱の位置？ もう何も残っていませんよ

男性職員は立ち上がり、カウンターの方へやってきた。受付の女性は一礼して、オフィスを出て行った。

ええ、わかっています。ただ厳密な位置を知りたくて。ご存知ありませんか

さあ……

男性職員は首をかしげると、今度は大声でどなたか海老津炭鉱の場所がわかる人、いませんか！ と、オフィス中の職員に向かって叫んだ。すると一番奥の、オフィスが見渡せる場所に坐っていた中年男性がひよっこ顔を上げ、こちらに歩いてきた。

海老津炭鉱の場所？

彼は私の前で、改めてそう言った。事務職らしくない、いかつい顔をした彼は何となく炭鉱マンのような雰囲気を持っている。

あ、はい。大学の卒論で三池炭鉱と筑豊炭鉱について調べています。どうしても海老津炭鉱跡に行きたいと思ひまして

海老津炭鉱はねえ

彼はそう言うと、ちょうどそこにあつたビニールコートされた岡垣町の巨大な地図を指した。役場がここ。駅はここね。で、海老津炭鉱はここ

え、ここ、ですか

私はまたもや大きな思い違いをしていた。私はニュータウンを目指して、駅から西へ向かつて来ていたのだが、実際の位置は駅より東であつた。

あー、そこにあつと。いつも俺、車で通るばい 額の広い男性職員が言った。

若い男性職員が来て、地図を覗き込んでいた。

確かまだ坑口のあつたら 中年の職員が言った。

えっ！ 坑口が残っているんですか！ 思わず私は大きな声を出した。

うんにゃ。なかよー 額の広い男性職員が言った。

うん、ないですよ。確かもう更地になつとつたですよ。それまで地図を覗き込んでいた若い男性職員が言った。

うんにゃ、あるて 中年の職員は言った。

あるにしろ、ないにしろ、これから行ってみます

私がそう言うと、額の広い男性職員は住宅地図を持ち出し、行き道を丁寧に教えてくれた。その間も あったて、うんにゃ、なかくての会話は繰り返された。ありがたいことに、住宅地図のコピーまでいただいた。私は熱く礼を言い、オフィスを出た。

私は役場を出て、西鉄バス 役場前 停留所からバスに乗り、もと来た道を戻った。駅に着き、そこから少し歩いたところにある踏切を渡ると、上り坂があった。左右に民家が建ち並んでいる。住宅地図で確認すると、海老津炭鉱跡地のすぐ側に 百合野公園 という小さな公園がある。この公園を目指して行けばいいのだな、と思った。歩きはじめると、前方から若い女性が歩いて来ているのが見えた。私は確認のつもりでその女性に尋ねた。

百合野公園に行きたいんですけど、この道であってますか  
あってまずけど……まだまだずーっと先ですよ

その女性は、私が徒歩でそこへ向かうということに少し驚いたようだった。  
ひたすら歩いていく。町営団地を過ぎると民家はなくなり、左右を竹藪に囲まれた、軽自動車一台や々と通ることができるとの狭い道がつづく。晴天の真昼間だというのに薄暗く、赤土がむきだしになっていて、シダ植物が生えている。車はおるか、人っ子ひとり見かけない。  
途中、竹藪の中に小屋のようなものがポツンとあった。中を覗いてみると、十五体の菩薩像があった。木製の看板には 川西四国霊場奥の院馬頭観世菩薩 と書かれてあった。気味が悪く、私はそそくさとその場を去った。

さらに十分くらい歩くと、民家が数軒立っていて、どの家の表札も同じ姓であった。住宅地図に従って、そこで左折し、小川の流れる小さな名のない橋を渡る。しばらく歩くと、ふたたび急な上り坂になる。民家が両脇に並んでいる。坂を上りつめると 主要地方道岡垣・宮田線

という大きな通りに出た。前方には小高い丘があり、草木が生い繁り、その一部が葉を赤く染めている。左手の駐車場には、数台の車と赤い塗料でやきいもと書かれた軽トラックが駐車されている。右手には有刺鉄線で囲まれた空地があり、私の背丈よりも高い雑草が生い繁り、立入禁止の札がかかっている。住宅地図を見ると、役場の中年の職員が書き込んでくれた炭鉱跡地は××さん宅の隣だ。駐車場の隣の民家の表札を覗くと××と書いてあった。ということはこの駐車場が海老津炭鉱跡ということになる。やはり跡形もなく、坑口も残っていなかった。私がうろろと歩きまわっていると、大通りに福祉バスと書かれた白いワゴン車が止まった。中から二人の小さなおばあちゃんが下りてきた。私は声をかけた。

すみません、ちょっとお尋ねしたいのですが、海老津炭鉱跡がこの辺かどうか来てたのですか？

そうですね。ここが海老津炭鉱ですよ。髪は短い、私の肩くらいまでしかない背丈のおばあちゃんは徹笑みながら言った。いっしょに歩いてきた髪を後ろで束ねたおばあちゃんも笑顔で

やっぱりそうでしたか！

私は住宅地図を差し出し、駐車場を差した。

ここが海老津炭鉱跡だと役場で聞いてきたのですが

ここだけじゃなか。ここ一帯、ぜんぶ海老津炭鉱ですよ

髪の短いおばあちゃんは辺りを見まわした。横でもう一人のおばあちゃんもうん、うんとうなづいた。

昔はここに人車があつてね。そしてここに巻き上げ機があつたですよ。坑口はこの山の上に

あったですよ。ここはボタ山を切り裂いて作った土地ですけんね

山を切り裂いて町を作る話がよく聞くが、ボタ山を切り裂いて作った町があるとは！ 髪の毛いおばあちゃんによると、役場の職員が坑口があるといった箇所、すなわち現在の駐車場にあったのは坑口ではなく坑夫を坑内に送り込む人車の車庫であった。そして坑口は前方にそびえる丘の上であり、今は立入禁止となっている有刺鉄線で囲まれた空地には巻き上げ機があったという。

そうですか。たいへんありがとうございます

何かの調査ですか

おばあちゃんは言った。

はい。筑豊炭鉱について調べています

どうして今ごろ？ もう筑豊は早かったですよ。何十年前かね

四十年ほど前ですよね。私がもう少し早く生まれていれば間に合ったかも知れませんが

私が軽い冗談を言うと、おばあちゃんたちは大口を開けて笑い、ほんなこてねえ。もう少し早かったらねえと言った。私は少しこの辺を歩いて見ますと言い、おばあちゃんたちと別れた。

海老津炭鉱はかつて、身体障害者ばかりを雇った特別なヤマを持っていた。先天性、後天性、あるいは不慮の事故による障害者もいただろうが、時代的背景を考えると傷痍軍人も多かっただろう。また鉱山密集地であった筑豊という土地柄を考えると、他のヤマで坑内事故に遭い、身体障害者になりクビになった坑夫がその大半ではなかったろうか。放浪性が強いと言われる筑豊の炭鉱労働者の中で、彼らは定着性が強く、経営者に対しても従順であったという。賃金

が安くとも文句ひとつ言わず、むしろ経営者に対しては感謝の念すら持っていたという<sup>1</sup>。海老津炭鉱で働いたことのある坑夫の証言を上野は著作に残している<sup>2</sup>。

ぼくは、はじめてヤマにはいったその夜のことをわすれることができません。そのヤマは九州採炭エビツ炭坑でした。しかもその下請負の組に掘進夫としてはいったのべやとから、労働組合もなければ自治制度の察もありませんでした。むかしかんごくよばれたふるい封建的な大納屋にぼくはほうりこまれました。正月はじめのひどいふぶきの午後でした。ぼくはまだみぬなまたちが昇坑してくるまでのあいだ、さむさにふるえながらじっと待っていました。中略とつぜん、なにかののしりあつてでもいるような声とともに、あらあらしく戸がひらいて、まっくらによごれたひとのむれが部屋の土間にながれこんできました。かれらはちらりとぼくの顔をみました。が、あとにはもうふりむきもせず、大声でわめきあいながらゆきをはたきおとしたり、きやはん脚絆をとりたりしました。かれらのしごと着からまいあがる炭塵でせまい土間はくろくかすんでいます。ちくしよう！正月そうそうなんだってこんなにゆきがふりやがるんだらうおてんとうさまがなあ、あたまがかゆくてフケをおとしているのさ。きさ。まいつも、そろばんいれてみると大分たらんことばかりいぞ。がたがたいわんと焼酎とってこい、さむくてやりきれんど！と片目のつぶれた四十ちかい大男がどら声でどなりました。はなのかくえた縮むさい小男が、ときかけた脚絆をあわててしめなおしてとんで出ました。ちかくの朝鮮人部落からでもあろうか、まもなくはなくえの小男は、しるくにこつたヤミ焼酎のピンを胸にだきしめてもどつてきました。みなはうばいあうようにして湯のみにつき、



目をほそめ唇をならしてのみはじめました。ぼくはもうびっくりしてその様子をみているばかりでしたが、このころのなかでは、まるで山賊のようなこのヤバなやつらとどうして一緒にやってゆけるだろうと、不安でいっぱいになりました。あすからは、あのはなくえの老人のようにかれらからどなりつければ、ヤミ焼酎をかいに追いまくられるのかと思うと、かれらが帰ってくるまえに、思いきつてにげだしてしまえばよかったのにと後悔するのでした。

おい、あんちゃん、さむそうにふるえてねえで一杯やりな、ぬくもるぜと目つきちの男が地下足袋のままぼくのまえにとびあがってきて一升ビンをつきだしました。ぼくはおどろいて顔をあげ、いいえ、ぼくはと手をふってことになりました。えんりよするな。ここにきてえんりよなんかしていると、めし一杯くいださんど。どいつもこいつもあつかましいやつばかりだからな。まるでおこっているような口ぶりです。なりながら、ぼくの手に分の湯のみをおしつけ、のこりすくなくなった焼酎をついでくれました。ピンをにぎっているかれの右手は、おやゆびと人さしゆびのほかは根もとからありませんでした。

中略

ふろにはいり、晩めしをすますと、かれらはもう寝るしたくをはじめました。敷ぶとんはまるで子供のもののように丈もみじかく、幅もせまかった。かれらはそのうえに掛ぶとんをかぶせると、やぶれ目にうでをつつこんで、あちこち団子みたいにかたまっている綿をひっぱってひろげていました。どのふとんにはいれぼいいのか、上下一枚しかないこのやぶれぶとんのなかでこのさむいのに寝られるだろうか、それにまた幅一メートルぐらいしかないこの敷ぶとんにどうして二人寝られるだろうかと、ぼくはぼうぜんと立

ちすくんでいました。目っかちの男がどら声でよびました。あんち　　やんは俺とねな！  
ぼくは服をぬぎ、おそるおそるかれのそばに足をいれようとしま　　した。かれはまたどら声  
をはりあげてぼくをわかりました。オット、そうじゃねえ、　　反対にもぐりこむんだよ、  
つまりあたまと足がならんでねるんだ　　ぼくはあわててと　　びおき、今度のはかれの足のほう  
からもぐりこもうとしました。　　そうそう、だがな、そ　　んなキヤベツみたいな厚着のまん  
まころがりこまれたんじゃ、おたげえさむくてやり　　きれねえ。もっとはだかになるんだ。  
ぬいだ着物はな、ほらこんなふうにうえからか　　ぶせるんだ。な、こうするてえと、おたげ  
えの五体の熱でじかにぬくもるし、二人ぶ　　んの着物をひとりで着たことになるわけだ。そ  
んなにうごきまわるな、せっかくひろ　　げた綿のやつが、またおちてまうど　　ぼくはいわれ  
るとおりにするしかなかった。み　　んなはまっばだかになっていた。が、ぼくはシャツ一枚  
つけて寝ました。垢とあぶら　　で黒びかりしているふとんは、ひえきつてまるでうすい氷の  
まくのように感じられま　　した。ぼくは息をのんでじっとたえてこらえていました。ぼくの  
はなさきで、目っか　　ちの男が地下足袋のにおいをさせていました。

あーあ、ええ夢でもおがめんかな……と目っかちが天井にむかってどら声を  
あげました。　　片目には夢だつて半分しかみえねえよ　　と隣のふとんから茶化しました。  
目っかちは負けずにどなりかえしました。　　パーカいえ！　　ほんとうにええとこちうも　　ん  
はだな、片目でしかおがめねえもんだよ。ちいさな穴から片目だけでのぞきみする　　もんだ  
よ。目なんてふたつもいるもんかい　　みなはおかしそうに笑い声をあげました。　　あいかわ  
らず外はひどい風とゆきがふきすきんでいました。しかしふとんのなかは、　　やがてぼかぼ  
かとぬくもり、いつのまにかぼくはすべてをわすれてヤマの第一夜をね　　むってしまいまし

た。

もつとはだかになつておたがいの五体の熱でぬくもれ といった、口はやかまし  
いけどやさしいところの目つかちの男のことが、いまだにぼくの胸にひびいていま  
す。……す。

悲惨極まりない話の多い筑豊の炭鉱秘話の中で、これはどこかおかしな響きのある話だ。と  
いっても、よくよく考えてみればやはり悲惨な話は悲惨な話。低賃金で雇われた身体障害者坑  
夫、寒すぎる納屋、丈の足りない汚れきった布団……。しかし彼らは悲惨な状況を笑い話に  
してしまう。筑豊にはたくさんさんの坑内唄も生まれている。笑い話にせずにはいられない、唄に  
せずにはいられない現実が、彼らに炭鉱文化を孕ませたのかもしれない。

彼らに文化も伝統もない。そんなものは一銭の金にもならなければ一粒の米にさえならない。  
だが、そんな極限世界だからこそ文化が生まれたのだ。それはなんと皮肉なことであろうか。  
私がおここに来るまで、地図上で目印にしてきた 百合野公園 は巻き揚げ機があつたという  
空地の横にあつた。そこには 奥海老津の碑 という石碑があつた。その碑文には次のように  
書かれていた。

戸切百合野の石炭採掘は明治初期と云われる本格的に始められたのは大正初期で吉田磯吉  
氏に依つて海老津炭鉱株式会社設立されるその他教育文化の振興にも盡力された戸切小学  
校も其の前身である又海老津駅と結ぶ送炭路エンドレス 終わりなき道 完成の頃から表字の  
奥海老津の名が継がれる此の様な変遷の中で国の基幹産業として大正昭和の発展の一途を辿  
る最盛期には従業員千参百名出炭量年間拾四万屯を記録される高質炭として国の指定を受け

る炭住街の生活環境は家族ぐるみの親近感を育て近所のつきあいは苦楽を共に分かち合うと云った心豊かな信頼感に満ちていた併し戦後のエネルギー革命の中で斜陽化が進み昭和三十一年五月閉山となり現在に至る 平成四年三月吉日 建立

石碑は平成四年に建立されたものだった。ともすればこの石碑が建てられたときまでは炭鉱の残骸が残っていたのかもしれない。

私は有刺鉄線で囲まれた空地の中に入って見た。が、そこには粉塵ひとつ残っていない、なんの変哲もない空地だった。私は数枚の写真を撮り、帰路についた。もと来た道を戻りながら、いつしか私は考え込んでしまった。私は何を求めてこんな山奥までやって来たのだろうか。しかも探すべきものは何も残っていないと知っていて。

筑豊中小炭鉱ではさまざまな日常の悲喜劇が生まれた。掘っても掘ってもボタバかりの薄炭層。なのにノルマを達成するまでつづく残業。ヒロポンを積んだ炭車。耐え難い圧制。死をかけた逃亡劇……。彼らは生きぬくことに全力を尽くした。そこには生の横溢がある。彼らの歩いた土の上には彼らの怨念と縄のようにからまった幸と不幸が染み込んでいる。私はただその土を踏みたかっただけなのかも知れない。

そんなことを考えながら歩いていると、私は道に迷ってしまった。もと来た道を歩いているつもりだったが、何だか違う道に入り込んでしまったようだった。山の中を下っているか、上っているのかさえわからなかった。人に道を訪ねようにも、人も通らねば、民家もない。もう三十分はとうに歩いている。もうそろそろ駅の近くを歩いていてもいいようなものだ。なのに電車の走行する音はまったく聞こえない。途方に暮れていると、遠くに、畑の中を歩いている人を見つけた。自転車を手で押しながら歩いている。私は駆け出し、すみませーんと大声

で叫んだ。二回目の呼びかけで、その人は気付き、立ち止まってくれた。近くにきて、その人が女性であることがわかった。年は五十代後半か。私は息を切らしながら道を尋ねた。

駅は、どのように、行けば、よろしい、ですか

駅？ 駅はあっちよ

彼女は前方は指した。

あ、そう、です、か

どこから来なすつたと

海老津、炭鉱、跡、から 息も絶えだえだ。

は一、ずいぶん遠回りしなすつたねえ

彼女は笑い、私も駅の方へ行くからいっしょに行こうと言ってくれた。歩きながら私たちは雑談した。彼女は自転車にたくさん竹を積んでいた。彼女は家庭菜園をやっていて、トマトや茄子やらの萋をはわせるための竹で、竹藪から採ってきたのだという。だんだん打ち解けてくると、今度は彼女が私に質問してきた。

調査で来なすつたと

はい。筑豊炭鉱について調べています。で、役場で海老津炭鉱跡の場所を聞いて、行って来ました

なんも残つたらんやったらう

はい。何も残っていませんでした

筑豊のことば調べよるなら、少しは炭鉱について勉強して来なすつたらうだい

あ、はい、少しは

炭鉱のもんはねえ、生活保護ば受けよる人の多かるが

そうらしいですね

生活保護ば受けよるくせに、家は建てらすとよ。別に名義人ば立ててたい。もうちっと役場も調べてから生活保護ばやるとよかとにね。私たちは四苦八苦して働きよつとに

彼女は吐き捨てるように言った。

三井三池炭鉱と言ひ、すぐに連想するのは豊かな生活だ。しかしここ筑豊では違うらしい。炭鉱は貧困の象徴なのである。

筑豊にはポタ山があると聞きました、それがポタ山でどれが自然の山なのか、私には見分けがつかないんですよ

私は話題を変えた。

ポタ山はもうなかですよ

えっ？

もう更地にしてしまったから。筑豊にポタ山はもうなかですよ

そうだったんですか

私はまたもや大きな思い違いをしていた。筑豊の至るところにはポタ山があり、人々は炭鉱の象徴ともいえるポタ山を日々眺めながら生活を送っていると思っていた。ポタ山炭鉱の残骸がある限り、人々は炭鉱の歴史を忘れることはできないのではないかと思っていた。

途中で、いっしょに歩いてくれた女性は家はこつちやんけんと言ひ、路地の中に入って行った。私は線路沿いの道を駅に向かって歩いた。

近代化遺産 あるいは産業遺産 という概念は、日本では近年になって輸入されたものだ。

だから今から三十年も前に閉山を経験した筑豊に産業遺産を保存しようという動きがなかったのは当然のことだ。加藤康子は「産業遺産とは何か」という基本概念は、その土地において産業とは何か」という本質的な問題にぶち当たると自身の著書の中で述べている<sup>3</sup>。筑豊にとつて石炭産業は貧困の象徴であり、もしかしたら愛すべき郷土の歴史ではないのかも知れない、と思った。

注

- 1 上野英信 日本陥没期 未来社、一九六一年、九頁
- 2 上野英信 追われゆく坑夫たち 岩波書店、一九六〇年、一四五頁 一五〇頁
- 3 加藤康子 産業遺産 日本経済新聞社、一九九九年、一〇頁

### 彼らが筑豊に求めたもの

上野英信、谷川雁、そして森崎和江らによつて起こつた「サークル村」の芸術運動は、結果的には失敗に終わった。そもそも彼らは本当に社会変革を起そうと思つていたのであるか。そしてなぜ彼らは当時、あまたある炭鉱社会の中で筑豊を活動の拠点として選んだのだろうか。それらの疑問に対する答えの糸口は彼らの残した作品の中にあるだろう。

森崎和江

彼女の著作 闘いのエロス 三一書房、一九七〇年 には サークル村 の発足から 大正行動隊、大正鉱業退職者同盟、そして 筑豊企業組合 までの筑豊における一連の運動について書かれている。一応これはフィクションということになっている。主人公は契子という朝鮮生まれの女だ。契子の夫は室井賢という男。室井はサークル村の結成にかかわり、大正行動隊、大正鉱業退職者同盟、筑豊企業組合 を指揮し、後に東京の企業に就職が決まり、筑豊を去る。

この本の作者である森崎は朝鮮で生まれている。夫、谷川雁はサークル村の運動が終ると、大正行動隊を組織し、大正鉱業退職者同盟の退職金闘争を指揮し、筑豊企業組合を指揮した。そしてその後、東京の言語教材の販売会社に迎え入れられ、筑豊を去る。フィクションでありながら、あまりにも現実と符合しすぎる。この本は森崎の自叙伝と考えるとよいだろう。 闘いとエロス の冒頭はこうだ<sup>1</sup>。

あの日帰りの車の中で室井賢が

どうだい、炭坑っていいもんだろ

と

君もなにか声がかかっていたじゃないか

どんなクリームをつけてるのってよってきたのよ

やつらどぎもを抜かれてんだぜ。日本の労働運動史上で、炭坑に女を連れてはいっ



たものはいやせんのだから

顎をあげて、ほがらかな顔をしていた。

女？

私もわらった。

女かどうかわからないわ、あたし

なにいつてんだい、二人も生んで

そんなこと！

あたしねえ、女をみつけたいのよ。あなたの奥さんや女房や細君や妻などにはならな

いわ。結婚って一度すればたくさんだわ。あたし、もうたんのうしたのよ。あなたと は友

達になりたい

君はぼくの女さ。女性なるものの集約さ。しかしいま事故死でもすれば、君はさし

ずめぼくの情婦って新聞に書かれることになるぜ

情婦？ ばかみたいね

その日、契子は室井とともに サークル村 の会員を獲得するために炭住街を歩きまわっ

ていた。その中で契子が達した結論は ベんじよ、と発音できるようにならねば <sup>2</sup> という

ことだった。契子はトイレを ベんじよ と表現するのを恥じるようなお嬢さまらしい。契子

が訪ねたある炭住では抗夫の妻らが集まっていた。そこで交わされていた会話に契子は度肝を

抜かれる。

そげえいったっちゃ、おなごでちゃ、したかるもん。

したかくさ。したかときゃ……

したかときゃ、なんな？ よかつがどこぞにおるな？ そげえ気のきいたつが。

おらんどちゃ、うちゃ、あんたらのごと、とうちゃんの間にあわせるこた、いやだ<sup>2</sup>。

筑豊炭鉱社会で、女たちは自由に自らの性について語り合っていた。坑夫の妻らと関わっていくにつれて、契子は自らの性について考え、そして次第に女の性欲を肯定していくことで、自らを解放させていく議論を吹っかけてくる夫、室井に あたしつらいのよ。あなたに抱かれないのよ<sup>3</sup> と言ったり、寝ようとする室井に 契子がなんにも考えないようにしてほしいのよ。ねえ、あたしを眠らせて、ね？<sup>4</sup> とねだるシーンがある。

筑豊炭鉱社会は自由恋愛の極地のようなどころでもあった。森崎の著書 まっくら 現代思潮社、一九七〇年 にある元女坑夫の証言が取められている。

この人がようなかなら、あの人、とさつきと捨てよったの。子供は置いて出よりましたけ。主人に暇くださいというもんもおりや、こそつと出るもんもおる。今のごと ありません。もっとのびのびしとったの。仕事が同じですけん、なんぼか気の合つと ちゃ仕事にならんけんの。危ない仕事じゃから。よか先山ば見つけにゃ損たい。<sup>5</sup>

このようなある種無秩序な恋愛の状況は何も筑豊特有のものではない。イギリスの炭鉱社会でも起こっていた。イギリスにおける坑内婦人労働禁止の立法化は無規律な恋愛の結果、

私生児が増加し、社会問題になったことによる。<sup>6</sup>

原始的な坑内労働は先山と後山がそろってはじめて成立する。先山は採炭する人のことで、男の仕事だ。後山は先山が掘った石炭をかき集めて、運搬する。男の後山もいたが、筑豊中炭鉱ではその大半が女坑夫であった。夫ひとりの給料ではどうてもい食べていけないから、妻も女坑夫として坑内で男と同じように働いた。こうした環境から、共働きの坑夫の家庭<sup>7</sup>では当時の一般の家庭よりも女権が拡張していたという。上野はこうした状況をとも働きを強いられる現状から夫婦の平等性について生理的なすどさをもっている<sup>8</sup>と述べている。

自由恋愛、夫婦の平等性など、近代日本を引きずっていた当時 現代も引きずっているがに欠けていたものが、筑豊炭鉱社会にあったことは確かのようにだ。また 夫や子供を捨てて共働きの甲斐のある男と逃げる女は多かった<sup>9</sup> という元女坑夫の証言もある。男の価値は先山としての技量であるという考え方があったのかも知れない。

森崎はこのような元女坑夫の証言について 労働の共有が具体的に証しできることが愛の深さでした<sup>9</sup>と述べている。しかしそれは果たして真実だろうか。夫と子供を捨て、共働きの甲斐のある男 先山としての技量のある男と逃げることに 愛の深さ だろうか。それは 愛の深さ などというものではなく、死の恐怖から必然的に生まれるエロスではなからうか。

森崎がそれまで生きてきた上流社会にはない素敵さが筑豊炭鉱社会には存在していた。それは、愛までも出炭量という換金尺度が飲み込んでしまうほどの絶対的貧困と死にもっとも近い場所に生きる彼らの極限世界から生まれたものであろうか。

谷川雁

谷川はサークル村についてこの首筋の細胞をちよっぴり瘰癧させてみたい欲望のためにいささかドラスチックな雑誌を作ろうとしてみたにすぎない<sup>10</sup>と自身の著書『影の越境をめぐって』六〇年代論草補遺 潮出版社、一九七七年の中で述べている。首筋の細胞をちよっぴり瘰癧させてみたい欲望を果たすためにサークル村を利用するのもいいかもしれない。しかし大正行動隊の一連の闘争はどうだろうか。

サークル村の運動が終わったあと、仲間も離れ、共産党から除名処分を受け、上野もいない筑豊で、谷川の独走が始まる。

一九六二年、福岡県中間市にあった大正鉱業が合理化案を提示した。大正鉱業はそのとき総額三十六億の負債を抱えていた<sup>11</sup>。谷川の呼びかけで大正行動隊が結成された。彼ら

の訴えはもちろん合理化反対だ。が、実際には福岡銀行の頭取宅にデモをしたり福岡銀行が大正鉱業への融資を中止したことで、労働者への給料が支給されなくなっていた、全学連と共謀して日本銀行を襲撃したり、大正行動隊はまさに実行部隊であった。

そして労働者らは無期限ストに入る。三十六億も負債を抱えた鉱山会社は一たまりもない。大正鉱業は合理化案を決定した。七五九人の退職者を出した。退職金は微々たる金額であった。

同年、大正行動隊から派生するかたちで大正鉱業退職者同盟が結成される。谷川のリードで退職金闘争が始まる。労働者らは坐り込みをつづけていたが、次第に脱落者が出は

じめる。彼らは生活費を稼ぐため、働く場を求めて県外へと流出しはじめた。中には大正鉱業の下請会社、孫請会社で働く者もいた。結成から一年後、同盟員の数は半数に減っていた。一九六三年、大正鉱業は第三次幹旋案を提示した。退職者らは妥結をせまられた。これによって得た退職金は結局、わずかなものだった。退職金を得た代わりに労働者らは社宅を追い出された。

谷川は 筑豊企業組合 なるものを発足させる。残留した三六〇名の労働者の家を自力で作る、という組織だ。住宅、商店、理髪店、保育園などの建設を自らの手で進めていこうとするが、うまくいくはずもない。そんなとき谷川に東京の会社から声がかかる。ある言語教材の販売会社だった。それまで 失業者の家造りこそ開いたと主張していたはずの彼が東京行きを決める。

ある晩、就寝中の谷川・森崎夫妻を 大正鉱業退職者同盟 の元炭鉱労働者が襲った。

彼らのひとりが先夜、表を叩いてわたしらを起した。はいつて来るなり室井の前に立ちはだかって、

きさんのごたる奴は、死ねっ！

と包丁につかみかかった。

やめろ、話をしたら分かる

室井が言った。

話？ きさんの話が信用されるか。きさんのことばが信用されるか。おまえ自身が信じきらんことばを、おれが信じられるか。

きさん、そげな魂の抜けたことばで労働者が釣れるち、思うか！ あ？ 釣れるか？

きさん、釣った気色でおっとか？ あ？

ああ、おれは信じたよ。おれはきさんのことばを信じたばい。きさんの人間は信じた

らんが、きさんことばを信じた。信じたばかりに、おれは、もう少しで労働者で失

うとこじやったばい。それが分かったから、おれはきさんを殺しに来た。

きさんが男なら、男らしゆう、殺されっしまえ。のけ、そこをのけ！ 殺されるのが、

おとろしいとか！

家中ふるえるごとき声をあげて、包丁をおさえている室井の前に立ち、かつと目を

あけてにらんでいた。静寂がつづいた。やがて、涙をこぼした。

きさんの命をとったつちや、なんならん。そんなもん、きさんにくれてやる。たつ

た一つ、約束しちやんない。あんた二度と労働者ちゆうことばをいわんでくれんの。労働

者ちゆうことばをいわんでくれ。それだけばおれに約束してくれんな。ほかの話 はいらん

そして二度と労働者の前に面だすな。

たのむ……

そしてながいこと泣き、だまって出て行った。<sup>13</sup>

一九六五年、彼は追われるようにして筑豊を去った。そして テック言語教材事業グループの開発部長に就任した。そしてトントン拍子に出世した。一九七一年四月十五日付の朝日新聞は彼を 落ちた偶像 と報じている。

労働運動を率いていた彼だから組合運動には理解があると思いきや、 なりふりかまわず

組合弾圧の鬼と化した<sup>14</sup> という、テック労組の組合員の証言も残っている。

谷川は大正行動隊についてはどう考えていたのだろうか。まさかこの首筋の細胞をちよつと痙攣させてみたい欲望のためではあるまい。大正行動隊の闘争は多くの労働者とその家族を巻き添えにしているのだ。

谷川は影の越境をめぐって六〇年代論草補遺<sup>15</sup>の中で大正行動隊は三池争議を越えられた<sup>15</sup>と述べている。その理由はこうだ。

三池が意識の炭鉱から一步身を引いて炭鉱を維持させようとしたのに対して、おれたちは故郷の粘着性と肉体の具足性を棄てつくすことに集約される炭鉱の意識構造の枠をさらに前に向けて破ろうとしたからだ<sup>15</sup>。

松本健一は著書谷川雁革命伝説一度きりの夢河出書房一九九七年の中で、谷川の作品思想の科学に寄せた城下の人覚え書きを引用しながら、谷川は大正行動隊の敗北を認めていないのではないかと述べている。

生きながら殺されてはたまらない。それは自分が敗北を認めた瞬間からはじまる状態なのだ。それを認めてはならない。認めさえしなければよいのだ<sup>16</sup>。

谷川のこの文章に対し、松本はそうだとすれば、これはあたかも大正行動隊の敗北でしよつとといったわたしに対して、谷川雁がへたな歴史家のまねをしてくれるなといった答

えのころにもなっていた。つづめていえば、谷川雁はあのととき、じぶんは敗北をみとめない、とつよく直言していたのだ<sup>17</sup>と述べている。

しかし谷川が城下の人覚え書きを書いたのは一九五九年。退職金闘争を終えたのは一九六三年だ。現実の敗北を経験し、それでも認めさえしなければよいのだと思いついでいられただろうか。

大正行動隊はQ炭鉱を遠賀のキューバにしよう<sup>18</sup>というピラを作っている。谷川は本当に社会変革を起そうとしていたのだろうか。本当に炭鉱労働者の退職金を獲得するため闘争をやっていたのだろうか。谷川は原一男氏製作のドキュメンタリー全身小説家もうひとつの井上光晴像のインタビューの中でこう答えている。

結局、彼井上はなぜ作家になったのかということがあるでしょう。簡単に言う

と、嘘言えるからじゃないですか。嘘言っても作家だもん、と言えば許してもらえ

というか、寛容性がありますよね

<sup>19</sup>

私はこれを読んで、愕然とした。私は天国にいる谷川に問いたい。気は正気かと。ならばあなたの残した作品は嘘か。作家だから、刺激的な言葉を並べて、嘘を書いていたのか。なら、あなたは炭鉱労働者が言った通りの人間じゃないか。言葉でだまっらかしたのかと。

私は彼の言葉を信じたくない。しかし筑豊での彼と東京に行っただけの彼とのギャップをどうしても埋めることができなかった。彼にとって、作品創造は作家ごっこであり、労働闘



争は闘争ごっこだったのか。

一九五七年、谷川は農村と詩 20  
にこう綴っている。

父の代に移住してきて中学校以来離れがちだった、なじみの薄い故郷。しかしそのほかに自分の故郷とはなかった。そこへ帰るよりほかなかった。帰らねばならぬ、誰ひとり歓迎する者のいない故郷へ。 中略

僕に愛の原理を示したのは形而上的親念でなく、未解放部落民であり、貧農であり、主婦たちであり、村の法則だった。彼らは一様に指している。何を。共同体を。

彼にとって、故郷である熊本県水俣市は馴染みの薄いところだった。彼に愛の原理を示してくれた小さくさくさのものが筑豊炭鉱社会には存在していた。おそらく彼は筑豊を故郷のように愛していたのだ。彼は一九五八年、東京へゆくな 21  
という詩を発表している。

あさはこわれやすいがらすだから

東京へゆくな

ふるさとを創れ

一九六五年、彼は筑豊を去り、東京へ行った。もはや筑豊で彼を歓迎してくれる者はいなかった。それどころかかつての仲間に殺されかけ、その後も何度か襲撃されている。

上京後、彼はいつさいの執筆活動を止めた。そして妻、森崎和江と離婚した。

彼が筑豊に求めたものは本質的には社会変革でも労働闘争でもなく、幻想の共同体、架空のふるさと の創成ではなかったか。

上野英信

上野はサークル村の発足に参加しているが、活動がもともとの方針から逸れはじめるや、いち早く脱退する。

私は彼の作品を数多く読んできたが、つい最近まで彼が日本共産党の党員であったということを知らなかった。それほど彼の作品はイデオロギーの匂いがしない。彼は炭鉱の悲喜劇を地獄のお伽噺話のように描く。思想的には解放されているように思われる彼だが、彼にもとり憑いて離れない影がある。

彼は学徒召集中の広島で敗戦を迎えた。彼にとつて原爆投下から敗戦までの十日間の体験は  
しいていえば、しょせん教わるることのない哀しみと呼ぶほかはないものかもしれない

もの <sup>22</sup> だという。彼は自身が被爆者であるということをなるべく隠そうとしてきた。その理由を被爆者であるということを知られるのが恐ろしいからではなく、アメリカ人を皆殺しにしたいという情念を知られるのを怖れていたからだ <sup>22</sup> と述べている。さらにこの自縛の苦しみをこう述べている。

どんな美しい思想も、建設的な平和の理論も、私をこの陋劣な苦しみから解放放つてくれない。鋭い放射能の熱戦が一瞬にして石畳に焼きつけた人影のように、この黒い影

も私から消え去ることはないのである。ひょっとしたら、生きているのは私ではなく、その黒い影だけかも知れぬ<sup>23</sup>。

とはいえ、彼の作品の中に被爆体験が出てくるのは、そんなにも強烈な思いがありながら、骨を噛む 大和書房、一九七三年の数頁だけだ。情念を知られるのを怖れて被爆者であることを隠してきたというのも理由のひとつだろうが、被爆体験を描くことによって作品が反米というイデオロギーに汚されるのを恐れたのかもしれない。

だが、この被爆体験も、彼が筑豊を活動の拠点として選んだ理由にはならない。私にヒントを与えてくれたのが、写真家田嶋雅巳氏だった。田嶋氏とは一九九八年三月、三井三池炭鉱閉山のとき、彼の取材を受けたのがきっかけで知り合った。最近は疎遠になっていたが、この度、私のほうから彼に連絡を取った。JR新宿駅東口で彼と待ち合わせた。現れた彼は五年前とまったく変わっていないかった。肩まであるボサボサの髪、鼻髭、白の麻のジャケットの袖をまくり上げ、ジーパンにスニーカー姿。彼は久々の再会をとても喜んでくれ、行き付けのゴールデン街の居酒屋に私を連れて行ってくれた。

彼は現在、四十九歳。名古屋市出身だが、大学入学で上京して以来、そのまま東京に住んでいる。大学でカメラに出会うと同時に、学生運動にのめり込んだ。授業にはほとんど出席せず、ある清掃会社でアルバイトをしていた。そこで労働組合を立ち上げるのに加わり、労働運動をしていく中で筑豊炭鉱について知った。そして上野の著作 追われゆく坑夫たち に感動し、上野に会いに行った。

こりゃ、会わんにゃならんと思ったね。ただものじゃーねえ、ってね。で、車でさあ、東京

から筑豊に行ったわけよ。そのころはもうサークル村もなくなって、上野英信は共産党を離れて、圧制小ヤマの散在するある町に、ポロポロの炭住の一室を購入して奥さんと住んでいた。一応、向こうは作家先生でしょ。炭住の周りをぐるぐる回ってさあ、大決心して、玄關を開けたわけ。するとさ、上野英信が出てきた。東京から来たんですけど……、俺がそう言うよね、ですけど、言い終わらぬうちに、彼は上がりなさいと言ったんだよね。すごい人だよ、普通じゃないよね、そんな気さくな作家。でね、上がると坑夫たちが団欒しているのよ。で、よう、兄ちゃん、なに飲む？ てね。それから飲んでくれて、その日の記憶はほとんどないよ

田嶋氏はそう言うと、グビグビと喉を鳴らしてビールを飲んだ。そして一気に中ジョッキの半分を空けてしまった。私は今日は自分の無知をさらけ出そうと思った。上野に関して、田嶋氏は私に近い感覚を抱いている、と直感的に思った。

田嶋さんはやはり上野英信の影響を受けてらっしゃるんですね

影響を受けているなんてもんじゃないね。あの人はオレが四十九年間生きてきた中で、唯一先生と呼べる人だね

私はつい最近、上野英信が共産党員だったということを知ったんです。彼の作品にそれほど思想的な臭いがしないと思うんです

そーねえ。彼の作品は当時記録文学と言われたんだ。彼は京都大学の支那文学専攻だったでしょ。あの人は結局、作家なんだよね。彼は食道ガンで若死にしたんだけど、死ぬ間際、彼はこう言ったんだよね。結局、俺は文学を残せなかったと。あの人は文学者になりたかったんだな

結局、俺は文学を残せなかった……。上野がそんな言葉を残して死んでいったとは。私とはとも寂しい気持ちになった。今日でもノンフィクションは芸術として認めない、という風潮がある。上野は九州の一炭鉱社会を描いたにすぎないかも知れない。それではなぜ四十年も昔の、地底で生きた人々の話に私たちが共感したり、感動したりするのか。それは私たちが誰しも心の中に炭鉱労働者のものを抱えているからではなからうか。かつて彼らは最悪の環境の中で、最悪の労働条件の中で這いつくばって生きてきた。そんな地下労働者のことなど自分にはまったく関係ない、と考える者もいるだろう。しかしそれは真実ではない。心の奥底では誰もが這いつくばって、真っ黒になって生きているのだ。上野の作品は私たちの心の奥底に潜む闇を気付かせる魔力を持っている。

それではなぜ上野英信は三池ではなく筑豊に目をつけたのでしょうか  
私は根本的な疑問をぶつけた。すると彼は即答した。

うん。結局ね、三井三池の炭鉱マンはエリートなんだよ

エリート？

そう。三井三池は階級社会なんだよ。資本対労働ではなく、労働者の中の階級ね。しょせん三井三池の炭鉱マンは三井資本に属しているエリートなんだよ、プライドが高いんだよ。で、労働組合もしつかりしているでしょ。しかし筑豊はなかなか労働組合ができなかったという状態がつづくね。それは筑豊の炭鉱マンは放浪性が高いという特質もあるんだけど、共産党はそこに目をつけたんだな。自分たちの手で労働組合を作ろう、と。無知な坑夫たちを教育していくわけね

確かに三井三池炭鉱の炭鉱マンはエリート意識を持っているかもしれない。私は三井三池の

元炭鉱マン三名に取材したが、会社を悪く言う者は一人もいなかった。三池の石炭は日本一良質であること、坑内のすみずみまで機械化された労働について彼らは誇らしげに語った。危険な目に遭っても、それを恨むのではない。むしろ炭鉱マンとしての勲章のように誇らしげに語る。

私は田嶋氏の話を聞きながら、ビールをぐいぐい飲んだ。これまでの疑問が次々と解決されつつあるのがうれしかった。そして素直に質問できるのもうれしかった。酔いがまわりはじめていた。私は筑豊労働運動に対する率直な感想を喋った。

筑豊炭鉱の労働組合を作るのを共産党がリードしたわけですよね。炭鉱というのはよく赤い煙突を目指していけば、米のまんまが暴れ食いと言われていましたね。で、三井三池では実際に米のまんまが暴れ食いできたわけですよ。ところが筑豊は違う。今日食べる米を欠くという状態で、栄養失調で皮膚が膨張した子供たちが炭住のあちこちにいた。そんな状態で労働組合を作ったりして、もっと悲惨な状態を招いたとは思いませんか。つまり三井三池は食える状態で運動をやっていた。が、筑豊は食えない状態で運動をはじめちゃったわけですよ。運動に無理があったのではないかと私は思うんです。坑夫とその家族と運動家たちの間に温度差みたいなものを感じるんです。現に筑豊には上野英信らが築いた炭鉱文化は根付いていないですから。ある意味で、筑豊は活動家たちのユートピアの幻想を満足させるための道具に過ぎなかったように思えるんです。

田嶋氏はちよっとムツとしたようだった。彼も昔は活動家だ。少し調子に乗りすぎたようだ。確かに当時でさえ、そういう批判はあった。……じゃあ、君は、当時の労働闘争や安保闘争をどう思っているの

彼は箸を置き、言った。私は正直に答えた。ここまで言ってしまったら、もう迎合するようなことは言いたくない。

私は……例えば、戦後最大の労働闘争といわれた三池争議でさえ、結局は何一つ変革できなかった。ソ連が崩壊して社会主義は人間の現実とはそぐわないものだとすることを歴史として知っていますから、今の時点で、私はそのような学生運動とかに共感しません。でも、そういう事を知らなかったら、もしかしたら、なにか夢を抱いたかもしれないが……私はおそろおそろ彼の顔を見上げた。すると彼はバンッとテーブルを叩いた。私はビクッとした。そして彼は人差し指を私に向け、言った。

そう。そうなんだよ！ 上野英信たちも夢を抱いたんだよね。俺も学生運動をして、生きるということは肉体労働である、と思つてね、掃除会社で、床に這いつくばつて、一日十三、四時間は働いていた。炭鉱は地底でしょ。肉体労働の極限が炭鉱にはある。炭鉱は俺たちにとって理想郷であり、天国なんだよ

でも実際、炭鉱社会は天国なんでしょうか

私は言った。

鎌田慧氏が 去るも地獄 残るも地獄 という本の中で、囚人の強制労働について述べているところがあります。地底の坑道の中に鳥居があり、囚人たちがご飯粒と自らの唾液で作った酒があり、ある種の自給自足の社会が地底にある。そこは天国 かも知れない、と

24

。しかし囚人たちは決して天国だとは思っていません。囚人たちです。だってかたや地上では吟醸酒を飲んでいる人々がいるわけでしょ。囚人たちだって飲めるもんならもつと旨い酒を飲みたかったと思うのです。つまり筑豊が天国だという考え方は、やはり幻想に過ぎないと思

うんです

田嶋氏は　そうだね……　と言い、黙りこくった。そして突然、上野英信について語りはじめた。

上野英信は結局、文学者だったと思うんだ。彼は純粹に変革を起そうと思つて、筑豊にやつて来たのか。そうじゃないと思う。作家として、描きたい世界が筑豊にあつたんだよね、きつと。彼は　追われゆく坑夫たち　の中でこう言っている。彼はあるヤマに下がっていたとき、不注意から怪我をしてしまう。そのとき同じ切羽で働いていた労働者が、けわしい急坂の、一人が這つていくことさえ難しい坑道を上野を負つて昇坑する。怪我しても無理矢理に働かせる鉱山で、仲間を助けるために上がってきた坑夫は後にどんな制裁を受けるか、わかるよね。

上野はそのときの様子を　ああ、病院……それはあの遠い坑外にあるのではなくて、このふかい海の底をあえぎあえぎのぼつてゆくわかい先山の背にあるのでした　と表現している。人間の背中が最大の病院だった、と。彼はいい事しか書かないんだ。後山　上野　が負傷したら、出炭量が減るよね。だったらさつさと後山である上野を上げてしまつて、別の後山を調達してきた方がいいじゃない。そういう見方もできるわけね。すべて彼のフィルターを通して炭鉱を描いているわけでしょ。まあ、あらゆる作品はそういうもんだけど

あらゆる作品は作者のフィルターを通して作られる。筑豊炭鉱社会は一度、上野の脳と心を通り、解釈される。彼の書いた世界は彼の心が見た世界だ。ならば作品とはその人の心の風景そのものとも言えるだろう。あるいは上野の　黒い影　が地底の世界を欲し、　黒い影　の命ずるまま、彼はその世界を描いたのかもしれない。上野が描いた地獄の楽園は　黒い影　そのものかもしれない。



結局、田嶋氏と私は朝まで語り明かした。

注

- 1 森崎和江 闘いとエロス 三一書房、一九七七年、七頁 八頁
- 2 同書、九頁
- 3 同書、八四頁
- 4 同書、八六頁
- 5 同書、二二一頁
- 6 上野英信 日本陥没期 未来社、一九六一年、二二四頁
- 7 市原博 炭鉱の労働社会史 日本の伝統的労働・社会秩序と管理 多賀出版、一九九七年、三五頁
- 8 上野英信、前掲書、二四五頁
- 9 森崎和江 まっくら 現代思潮社、一九七〇年、八一頁
- 10 谷川雁 影の越境をめぐる 六〇年代論草補遺 潮出版社、一九七七年、一〇三頁
- 1 森崎和江 闘いとエロス 三一書房、一九七七年、一三三頁
- 1 内田聖子 谷川雁のめがね 風濤社、一九九八年、一一六頁
- 1 森崎和江、前掲書、三一二頁 三一三頁

1 4	内田聖子、前掲書、二〇頁
1 5	谷川雁、前掲書、八七頁
1 6	松本健一、谷川雁、革命伝説 一度きりの夢 河出書房、一九九七年、一一一頁
1 7	松本健一、前掲書、一一二頁
1 8	谷川雁、前掲書、九六頁
1 9	松本健一、前掲書、十五頁
2 0	谷川雁、谷川雁詩集 思潮社、一九六八年、四七頁
2 1	同書、二六頁
2 2	上野英信、骨を噛む 大和書房、一九七三年、四五頁
2 3	同書、四四頁
2 4	鎌田慧、去るも地獄 残るも地獄 三池炭鉱労働者の二十年 筑摩書房、一九八二年、九一頁

**三 井三池炭鉱旧宮ノ原坑と旧万田坑の重要文化財指定がもたらしたものの**

一九九八年五月、三井三池炭鉱旧宮ノ原坑と旧万田坑は国の重要文化財指定を受けた。閉山して半年後のことだ。宮ノ原坑は一九〇一年十一月に操業を開始し、一九三一年に閉坑した。ここでは囚人強制労働が廃止される年まで囚人らが採炭に従事していた。万田坑は一九〇二年

に操業を開始し、一九五一年に三川鉱と合併と共に閉坑した。ここでは中国人、朝鮮人の強制労働が行われていた。

それに先立つ二年前の一九九六年九月五日午後三時、三井三池炭鉱四山鉱が爆破解体された。当日、周辺は騒然となった。多くの市民が見物に訪れた。マスコミが殺到し、上空を七機の報道機関のヘリコプターが飛び交った。

見物人の中にはかつて四山鉱に下がっていた元炭鉱マンもいた。涙を流す人もいた。声を詰まらせながら、ある古者はテレビのインタビューに答えた。

もう本当に自分の父親を亡くしたような感じですよ

やっぱり涙でるちゃ、ほんなこて。ああ、うう、嗚咽をこらえて 希望のなかに思えて、

これが最後の誓いで、これをやっぱり三池のシンボルとして残してほしいちゆう気持ちだけで……。みんな、みんなが今も言いよんなはったごつ、これだけは残してほしかったちゆうて……。

かつて 四山鉱 は東洋一のコンクリート・ヤグラと言われていた。コンクリート・ヤグラは原始的な採炭方法から近代的なそれに変遷する過渡的技術形態を示すものだ。日本においては三井三池炭鉱四山鉱、貝島炭鉱、福島炭鉱、志免炭鉱が持っていた。このような点で四山鉱のコンクリート・ヤグラは工学的価値だけでなく、造形的にもシュールな美しさをも兼ね備えていた。画家、寺田光洋は夜の四山鉱を油絵に残している。

産業考古学会は客観的価値のある四山鉱の保存要請を再三にわたって三井鉱山に訴えていた。四山鉱爆破解体の情報が荒尾市に入ったのは当日の三日前だった。急きよ、市は三井鉱山に解体中止を要請したが、門前払いをくらったのだった。

万田坑の重文指定を受けて、万田坑ファン倶楽部が設立された。会員は現在、約二百名。主に万田坑の清掃、活用のための企画万田坑でコンサートを開いたこともある、そして広報を担っている。万田坑ファン倶楽部は万田坑重文指定後に市によって催されたワークショップにおいて、重文指定を受けた万田坑をどう活用すべきかというテーマで市民が盛り上がり、その場で結成された。万田坑ファン倶楽部はまさに市民の主体性によって作られた市民団体だ。先日、万田坑の草刈のためにボランティアを募ったところ、なんと百人も集まったという。その際、万田坑のヤグラのサビ止めのためのメンテナンスを施した。五千万円の費用がかかったという。

大牟田では大牟田・荒尾炭鉱の町ファンクラブという市民団体が二〇〇一年十月に設立された。この団体の起源は一九九七年三月に元炭鉱マンの父親を持つ前川俊行氏によってつくられたホームページ異風者からの通信にある。前川氏がホームページを作製した理由をこう述べている。

「三池炭鉱の閉山を知り、急にそれがいとおしくなり、そういえば我が家に三池争議時代の写真がかなり残っていた事を思い出し、中略ホームページを作ってみようと思ひ……」

そして翌年、前川氏と数人の同志は「がんばろう大牟田・荒尾合同キャンペーン」と銘打って、大牟田、荒尾両市に点在している産業遺産の保存活動を行った。

二〇〇〇年、大牟田・荒尾がんばろう会を正式に設立し、キャンペーン活動を続行する。同会は大牟田市第三次総合計画後期基本計画案策定に基本計画案を提出したり、まちおこし研究会というシンポジウムを開催したりしている。しかしここで、単に故郷を懐かしみ、それを仲間と共有したいだけという人々と実際に保存活動を行いたいという人々が分裂する。そ

ここで、同会から派生するかたちで 大牟田・荒尾 炭鉱の町ファンクラブ を発足させ、同会から独立。 大牟田・荒尾 炭鉱の町ファンクラブ は定期的に産業遺産を活用したイベント活動 **TantoTanto** オーク や独自の調査、研究を展開している。今年十二月八日にはNPO法人の認証申請を行ったところだ。人々の故郷を愛する気持ちは今、形になりつつある。

注

1 永吉守 大牟田・荒尾における近代化遺産保存にむけての市民運動 エコ・ミュージーアム・文化観光・地域アイデンティティ構築への試み 九州民俗学会、二〇〇一年六月例会発表原稿

### 三 池的 炭鉱文化

筑豊にはたくさんの坑内労働唄が残っている。

汽車は炭ひく

雪隠虫や尾ひく

川筋下罪人はスラをひく

これは筑豊で生まれた坑内仕事唄だ。

フォーク・シンガーの後藤悦治郎<sup>1</sup>は抑圧されればされるほど、その土地や人々の間で

、僕らの心を打つ本心に素晴らしい歌が生まれるのです<sup>2</sup>と言う。謂れない不幸と苦し

みを唄に託す。しかしつらい現実をそのまま言葉にしては、自分で自分の首を締めるだけだ。

だからそこにユーモアが生まれる。被差別部落やアメリカ合衆国南部に優れた音楽が生まれたのはそのためかも知れない。

三池には三池特有の歌は存在しない。そういう意味では、三池は文化に乏しいとも言えない。

私はこの度、三人の三井三池炭鉱の元炭鉱マンに話を聞いた。彼らのもっとも言及が多かったのは保安意識だった。彼らは一様に炭鉱マン時代のつらかったこととして事故・ケガを挙げた。危険な労働現場だから、自ずと保安意識が強まる。連帯意識が生まれる。

坑内で困った人がいれば、自分のことはほったらかしてでも飛んでいくと三井三池の元炭鉱マンであるS氏は言った。坑内で困ったこととは事故、あるいは事故につながるようなことを意味する。互いに助け合わなければ保安は成り立たない。このことが彼らに互助性をも育ませ、それが人情を生み、坑内のみならず社宅の中にも浸透した元炭鉱マン自身もそして彼らの妻も一緒に炭鉱の人は人情が厚いと言う。それは長屋暮らしという物理的要因も作用しただろうが、やはり炭鉱マンの保安意識の裏には常に家族の存在があったせいだろう。

七つ八つからカンテラ下げて

坑内下がるも親の罪

これは筑豊で生まれた坑内唄だ。親の罪とはなんと哀切な響きだろう。ろくな食い物にもありつけず、子供の頃から強制労働的に働かされ、謂れない差別を受ける哀れなわが身を彼らは親の罪という原罪意識でもって納得しようとしていたのかもしれない。

三池でこのような坑内唄は歌われていない。筑豊と違って炭鉱マンを下罪人とは呼ばない。しかし三井三池の炭鉱マンが炭鉱社会の外の世界をシヤバとか地上という言葉で表現する言葉がある。娑婆を辞書で引いてみると三番目の語意として軍隊、牢獄などから見た、一般人の自由な世界と訳してある。三井三池の炭鉱マンの言うシヤバや地上には筑豊が下罪人と呼ぶほどの深刻な響きはない。肉体を危険にさらす代償に家族を十分に養えるほどの金額を稼ぐことが、むしろシヤバや地上の人間が持たない類の誇りをもたらした。

元三井三池炭鉱のS・H氏は炭鉱労働を天職だったと言いつつ、坂井氏は好きやったと言った。炭鉱社会の独特の連帯意識が彼らを世間知らずの少年にした。死と常に隣り合わせという環境においてはワイワイと仕事し、ワイワイと帰ることや昼寝や弁当を食べることなど、当たり前のことさえも強烈なよろこびとなった。坑内事故に遭っていつ命を落すかもしれない状況は彼らを信心深くさせた。炭鉱には山の神という炭鉱の神様がいて信じられている。入坑する前に坑夫たちは必ず山の神に無事を祈る。

保安意識から生まれた互助性、人情、死と常に隣り合わせに生きる者の特権的な誇りと

生きるよろこび、炭鉱愛、素朴な気性、素直な信仰心……。これらの独自の文化を私は炭鉱ロマンと呼びたいのである。

注

1 赤い鳥の元メンバー。代表曲は翼をください。現在は紙ふうせんというバンドを結成し、関西を拠点に音楽活動をしている。

2 森達也 放送禁止歌 解放出版社、二〇〇〇年、一八五頁

## エピローグ

豊かな炭鉱文化を持ち、誇るべき産業遺産を持っているながらも、その活用は充分になされていない現状を大牟田は持っている。大牟田の人々はおとなしい。明らかに矛盾した市政を目の当たりにしても、人々は文句ひとつ言わない。人々は植民地気質たいと自嘲する。

一八八九年から一九九七年まで、実に一〇八年にわたって大牟田は三井王国の植民地であった。その間は三井鉱山の言いなりに市政が行われてきたといっても過言ではない。三井鉱山が潤うことは大牟田の経済が潤うことでもあった。しかし今は違う。

一〇八年におよぶ植民地化体制は人々の連帯感を奪った。ロバート・D・パットナムは垂直



的な組織のもとでは市民概念そのものの発達が阻害される、と述べている<sup>1</sup>。垂直的とは強大な組織と人々の搾取・従属のパターン<sup>2</sup>の関係である。これはまさに三井鉱山と大牟田の市民の関係そのままだ。

この歴史的連鎖を断ち切ることは決して容易なことではない。だが、時間をかけて、じつくりと変わっていかばいい。今、その芽が出はじめている。

昨今、市民、とりわけ若者の間で三池炭鉱の歴史がもてはやされている。それは趣味やマニアの領域のものではない。私を含む多くの若者は自分の生まれ故郷にルーツとアイデンティティの欠片を探しているのだ。

私は夏休みに大牟田・荒尾炭鉱の町ファンクラブの代表の永吉守氏西南大学大学院生に会う機会があった。私が調査をはじめ直前のことだった。私は彼に三池にも筑豊のように炭鉱文化はないんでしょうかと嘆いた。すると彼は力を込めて言った。

ありますよ。今はまだ眠っているだけです。眠っている文化を掘り起こすことが、今後、私たちに課せられたテーマなんです

今、私は彼の言葉を信じている。眠っている炭鉱文化を掘り起こすこと、それはまさに私たちの使命ではないだろうか。

谷川雁はかつて筑豊に故郷を求めていたのではないかと前述した。彼は自らの手で灰色の、伝統も何もない、流れ者の吹き溜まりに文化と伝統を創ろうとした。彼が残した東京へゆくなふるさとを創れという言葉は、故郷を愛したい者への、故郷を求めるものへの、そしてルーツとアイデンティティを模索する者への遺言のように思われる。

注

1 ロバート・D・パットナム 河田潤一訳 哲学する民主主義 伝統と改革の市民的

構造 NTT出版株式会社、二〇〇一年、二二七頁

2 同書、一八一頁

参考文献

池上彰 そうだったのか！ 日本現代史 ホーム社、二〇〇〇年

市原博 炭鉱の労働社会史 日本の伝統的労働・社会秩序と管理 多賀出版、一九九七年

上野英信 追われゆく坑夫たち 岩波書店、一九六〇年

上野英信 日本陥没期 未来社、一九六一年

上野英信 骨を噛む 大和書房、一九七三年

内田聖子 谷川雁のめがね 風濤社、一九九八年

加藤康子 産業遺産 日本経済新聞社、一九九九年

金子雨石 筑豊炭坑ことば 株式会社名著出版、一九七四年

- 鎌田 慧 去るも地獄 残るも地獄 三池炭鉱労働者の二十年 筑摩書房、一九八二年
- 財団法人西日本文化協会 福岡県史 通史近代産業経済 福岡県、二〇〇〇年
- 重松 一義 三池集治監小史 二〇〇一年
- 新藤 東洋男 三井鉱山と与論島 人権・民族問題研究会、一九六五年
- 田川市石炭資料館 田川市石炭資料館 一九九八年
- 谷川 雁 影の越境をめぐって 六〇年代論草補遺 潮出版社、一九七七年
- 谷川 雁 谷川雁詩集 思潮社、一九六八年
- 永末 十四雄 筑豊 石炭の地域史 日本放送出版社、一九七三年
- 永吉 守 大牟田・荒尾における近代化遺産保存にむけての市民運動 エコ・ミュージアム・文化観光・地域アイデンティティ構築への試み 九州民俗学会、二〇〇一年六月
- 例会発表原稿
- 西日本新聞社都市圏情報部 九州漫画家図鑑 西日本新聞社、二〇〇〇年
- 日本石炭協会 九州石炭統計年鑑 一九五二年
- ロバート・D・パットナム 河田潤一訳 哲学する民主主義 伝統と改革の市民的構造
- N T T 出版株式会社、二〇〇一年
- 森崎 和江 闘いとエロス 三一書房、一九七七年
- 森崎 和江 まっくら 現代思潮社、一九七〇年
- 松本 健一 谷川雁 革命伝説 一度きりの夢 河出書房、一九九七年
- 宮村 眞澄 三池争議の軌跡 葦書房、一九八五年
- 森達也 放送禁止歌 解放出版社、二〇〇〇年

